

新学長の挨拶

―学長をお引き受けして―

千葉大学学長 齋藤 康



医学研究院教授会のご推薦を受け、学内の多くの方々のご支援をいただき本年4月から学長職をお引き受けすることになりました。身に余る光栄に存じますとともに、責任の重大さに改めて身の引き締まる思いでございます。

いわゆる国立大学と言われた時代から法人化した現在までに多くの変遷があり、今後も多くの変化が訪れるであろうと予想されています。その変化には医学、医療の領域はもろろんのこと、大学が本来果たすべき役割すら失いかねないような社会情勢の中にあるように見えます。

本来大学にはいろいろな専門家がおり、それが自由に存在しているという、言葉をかえると多様な人々と機能が存在する研究・教育の府であると思います。このことこそが、国家が大学

超えて、専門領域を超えて改変し、融合し、発展していくことが行われつつあります。

柏の葉にあるキャンパスでは健康をキーワードに医学部をはじめ園芸学部、教育学部、薬学部、看護学部などがいっしょになってフィールドワーク、環境づくり、園芸療法など様々の取り組みをしています。西千葉ではいろいろな学部が融合して研究教育が行われており成果が生まれています。このような形態をとって本来の大学の使命を果たしていくことができることは、総合大学としてきわめて多様性を持つ大学のひとつの特徴でもありこれが大学のひとつの力でもあると思います。

千葉大学にとって医学研究院の役割は過去にもそうであったように実に重要であります。どの学部の発展も大切です。医学研究院が先頭に立って千葉大学の進むべき道を示してほしいと思います。それが千葉大学が発展する道であると信じ、微力ではありますが全力を尽くして突き進んで参ります。

ろのはな同窓会の皆様にも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

就 任 挨 拶

千葉大学大学院 医学研究院先端応用外科学

教授 松原 久裕 (昭59)



平成19年10月16日付けで落合武徳前教授の後任として先端応用外科学教授を拜命致しました。当科は旧第二外科の時代より瀬尾、中山、佐藤、磯野、落合教授と歴代の優れた教授の下で発展してまいりました。私自身は昭和59年に千葉大学を卒業、癌治療を中心に研究ならびに手術のできる外科医を目指し当第二外科に入局しました。その後、沼津市立病院、国保成東病院に出張、初期外科研修を終え千葉大学大学院に入学、分子生物学的手法を用いた腫瘍免疫の研究を、免疫学教室谷口克教授のもとに学び、当科磯野可一教授指導により学位を取得致しました。その後、国保成東病院へ再度出張し消化器外科を中心に修練した後、帰局し

法人化され、競争的研究資金の獲得が大学発展のため非常に重要になった現在、きわめて有益であり当科の発展のみならず、医学部、千葉大学の発展のため大きな力となると信じていますし、さらにそのために一杯働いていきたいと考えております。

また、当時の磯野可一学長、落合武徳教授のご高配により平成15年より18年7月までの3年間、文部科学省研究振興局学術調査官を兼任致しました。学術調査官といってもなじみが無いと思いますが、学術の世界で最も重要な競争的研究資金である文部科学省科学研究費補助金のシステム・審査体制の整備・改革、研究推進のためのプログラムオフィサーとしての役割を担っています。外科医との二足の草鞋は極めて多忙であり、心身ともに疲弊する日々でありましたが、この経験は非常に貴重であり科学的なものの方は非常に研ぎ澄まされ、より大きな視野で科学研究を捉えられます。このことは国立大学が

が大学の使命である新しい治療法の開発のための臨床研究、トランスレーショナルリサーチへの参加を可能にします。まだエビデンスとなっていない、将来のエビデンス・標準治療となる手術を中心に据えた新しい治療の開発を積極的に進めてまいります。また、若輩でありこれから勉強すべきことも多数ございますが、皆様のご指導・ご鞭撻により学生・若い医師が夢を抱ける、在籍している医師が輝いて働いている外科学教室を創っていきたくと考えております。ご支援のほど何卒よろしくお願い致します。

千葉大学大学院

医学研究院自律機能生理学

教授 三木 隆 司 (昭63)



平成19年12月1日付で、福田康一郎教授の後任として、千葉大学大学院医学研究院自律機能生理学教授を拝命いたしました。私は昭和63年に千葉大学医学部を卒業後、吉田尚教授の主宰

する本学第二内科に入局いたしました。その後7年間の臨床研究の後、齋藤康教授のご高配により本学の高次機能制御研究センター発達生理分野の清野進教授(現神戸大学教授)のもとで糖尿病の基礎研究を勉強する機会をいただきました。発達生理分野では稲垣暢也先生(現京都大学教授)らによってクローニン

チャネルの生理機能を、遺伝子改変マウスを用いて解明する研究に着手しました。マウスの解析を進める過程で、大変運の良いことに、私は北海道大学の岩永敏彦教授、本学薬理学教室の中谷晴昭教授をはじめとする数多くの素晴らしい先生方に出会うことができました。先生方の温かいご指導をいただきながら充実した研究生活を送ることができました。平成15年に清野教授の神戸大学への異動に伴い私も神戸大学へ移り、その後4年間神戸で教育と研究に従事いたしました。神戸でも多くの先生方からご助言をいただく幸運に恵まれました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

昨今の生命科学の進展は著しく、多くの事実が驚異的なスピードで明らかにされていますが、細胞間や組織間の相互作用を介した、システムとしての生命現象の理解はまだ十分ではなく、今後の重要な研究課題であると考えております。現在、私は糖代謝・エネルギー代謝の恒常性を維持する分子メカニズムの解明を目指しておりますが、このような生体の自律機能の維持機構の解明は様々な疾患の発症や進展の機序

の理解に極めて重要であり、今後これらの研究の重要性は一層増すものと考えます。我が国の基礎医学研究の現状は非常に厳しい面もありますが、基礎医学研究の興隆なくして将来の医学・医療の発展は望めないことは明らかであります。私は、将来の臨床医学への応用を常に念頭に置きながら生理学研究を推進していきたいと考えております。

自律機能生理学教室は、これまで福田篤郎教授、本田良行教授、福田康一郎教授、諸先生方のご尽力によって、長きにわたり輝かしい生理学研究が進めら

れ、また数多くの医学部学生や研究者を世に送り出してきた伝統ある教室であります。今回の着任は私にとって身に余る光栄であると共に、これまで培われた研究・教育の伝統をさらに発展させるといふ責務の大きさに身が引き締まる思いがいたします。患者さんの命を預かる医師を育成するための医学教育と、疾患の発症の予防と治療をめざす医学研究を両輪の車として、今後精一杯の努力をする所存です。皆さま方のますますのご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

千葉大学医学部附属病院 診療教授就任のご挨拶

附属病院診療教授 (脳神経外科)

山上 岩 男 (昭53)



「診療教授」。多くの皆様にとって、初耳あるいは馴染みのない名称と思えます。診療教授は、平成18年7月制定の附属病院内規により新たに定められました。その内規には、附属病

院における診療・研究・教育体制の充実を図るため、特に臨床面で優れた業績のある者に対して診療教授の称号を付与する」と記載されています。実績などへの評価の必要性も考慮し任期は1年、再任の妨げはありませんが1年毎の更新が必要です。診療教授制度は、平成17年10月琉球大学医学部において、優れた臨床技術、豊富な診療、臨床教育

経験を積んだ臨床医学分野の教授に準じると認められる助教、講師に対して付与する」として国立大学で初めて導入されましたが、全国レベルでも特徴的な制度です。なお、診療教授にともなう給与面での待遇変化は発生しないということは、いずれの大学においても共通しています。

医学研究院脳神経外科佐伯教授の御推薦をいただき、他の診療科に先立ち平成19年4月1日付にて、第1号の附属病院診療教授(脳神経外科)を拝命いたしました。これも偏に、山浦名誉教授、佐伯教授をはじめ、多くの皆様の御指導・御尽力によるものであり、厚く御礼申しあげます。

私は昭和53年千葉大学医学部を卒業し脳神経外科教室に入りました。当時の脳神経外科教室は牧野博安教授(故人)のもと、黎明期から成長期に向かって教室員一同とても輝いておりました。そのような環境で脳神経外科研修を開始できたことは、この上ない幸運でありました。その後、君津中央病院、鹿島労災病院などで脳神経外科全般に関する豊富な経験を積み、DSCFでは脳血流の研究に没頭することができました。平成4年千葉大学医学部脳神経外科に戻り、脳神経外科における「step by step」としての「頭蓋底外科」をおもな専門としてきました。頭蓋底外科のおもな対象は、聴神経腫瘍・髄膜腫などの良性頭蓋底腫瘍と頭頸部悪性腫瘍です。これまで200余例の聴神経腫瘍をはじめ、わが国屈指の頭蓋底手術を経験することができました。このような実績を御評価いただき診療教授拝命に至ったものと考えております。

国際医療福祉大学 臨床医学研究センター

教授 増山 英 則 (昭56)



平成20年1月1日付をもちまして、国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授に就任いたしました。所属は千葉県市川市にある同

情報において、千葉大学の評価は必ずしも芳しくありません。これらの医療情報のほとんどが、「患者のためになる信頼できる医療情報」とは懸け離れたものですが、このような不完全な情報を頼りに主治医を求め、往復う患者は決して少なくありません。医療が社会的活動である以上、医療は社会的評価から逃れられませんが、千葉大学に対する社会的評価を高める努力は是非必要です。

千葉大学および関連施設における診療・研究・教育体制の充実と発展に貢献できよう今後も努力して参ります。皆様の一層の御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

法研究会の附属病院として開設されました。往時は三井財閥の三井報恩会より支援を受け、宮内省からも明治天皇の御質問所として使用された「恩賜館」を下賜されるなどのご期待に応えるべく、結核治療に大きな役割を果たしてきました。このような由緒ある施設で仕事ができるのは結核対策を専門にする私にとっても望外の喜びであります。本院に同窓では、院長 税所宏光先生(国際医療福祉大学教授)、名誉院長 遠藤光夫先生、消化器内科部長 鶴樫実先生、同副部長 本告成淳先生らが在籍されています。

私は、昭和56年に千葉大学医学部を卒業後、故本田良行教授の主宰する第二生理学教室の大学院生になりました。院生1年目は国立療養所東京病院(現 国立病院機構東京病院)で結核や他の呼吸器疾患を勉強した後、2年目より人体呼吸生理、とりわけ呼吸の化学調節系能力の研究をさせていただきました。院修了後、東京都養育院附属病院(現 東京都老人医療センター)を経て昭和62年から財団法人結核予防会に勤務し、平成18年に渋谷診療所長を最後に退任いたしました。

名誉教授就任

千葉大学名誉教授の称号授与に関する規定が平成19年10月に一部改定されるため、次の9名の先生が名誉教授の称号を授与されました。

- (昭35) 昭義美夫 徳彦道之治
- (昭36) 善昭英晴 武孝喬正
- (昭38) 田野和 藤合澤部山瀬
- (昭39) 増今大 伊落藤服栗一

た。この間、本会の理事として経営的な勉強もいたしました。本会の使命とする国の内外の結核対策にあたって参りました。結核研究所の諸先生との共同研究のほか、米国CDCの結核部門部長のDr. K. Castroらの知遇をいただいております。厚生労働省関連では結核緊急事態宣言を受け、日本にDOTS(直接監視下での結核治療の概念)を導入するきっかけの仕事をしたほか、法改正にあたり胸部健診方向性の決定にも参画いたしました。文部科学省関連では、平成15年から開始された学校の結核対策の改変(ツ反を廃止し問診票によりチェック)に際しては、制度全体

のスキームを結核研究所長森亨先生と一緒に構築する機会に恵まれました。フィールド・ワークとして北陸のある県で医師会の協力の下10年以上に亘り全県をまわった結果、結核治療の指標を全国2位に改善させることができました。また国際協力面でも7年の間、ネパールに短期派遣専門家として現地の結核対策指導に従事して参りました。

岸文雄先生、同病院部長佐々木結花先生はわが国の結核医療の指導的立場でHIV感染やコンプロマイズド・ホスト対策の第一人者ですし、千葉大学総合安全衛生管理機構教授 長尾啓一先生は学会の重鎮であるばかりではなく、カンボジアの結核対策に関しては、附属病院感染症診断治療部講師の猪狩英俊先生とともに活躍されています。また国際協力の面では小野崎郁史先生が昨年末にWHOのオフィサーとして赴任されました。また、ちば県民保健予防財団常務理事 鈴木公典先生は日本結核病学会の予防委員長として「フォントイフェロン」による結核感染診断の普及に努めておられます。私は結核予防会や結核病学会を通して、これらの先生方や日本BOC製造(株)常務取締役 小山明先生など、多くの

のほな同窓の方々に変お世話になって参りました。とりわけ、「千葉学派」のまとめ役の元結核予防会常任理事 志村昭光先生には結核予防会に在籍中にもとより今回の大学就職に際しても貴重なアドバイスをいただき、一生忘れられないご恩を蒙りました。また、院長の税所宏光先生に

も職位の件で計り知れないご尽力を賜り感謝しております。今度の職場では、これまでの経験をいかし、結核症の疫学管理と臨床研究に加え、千葉県の結核医療に貢献

東邦大学医療センター

佐倉病院外科 教授 岡住慎一(昭59)



できればと考えております。浅学非才の身でありますが、今後とも同窓会の先生方のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

この度2月1日付で、東邦大学医療センター佐倉病院外科教授に着任いたしました。千葉大学時代は、長きにわたり、多くの方々にご指導ならびにお世話いただきましたことを、深く感謝申し上げます。

東邦大学医療センター佐倉病院は、東邦大学医学部附属病院として、大森病院、大橋病院に続いて、平成3年に300床にて開設された新しい病院です。近隣は、佐倉、四街道、八千代、印旛に囲まれており、近年のベッドタウンの拡大を背景として、昨年末451床への増床が竣工し、新たなス

とも交流できました。1987年に帰局して「レントゲン研究室」に入り、山本宏室長(現千葉県がんセンター外科部長)に外科画像診断を学び、学位研究は「ポジトロンCT」の癌診断への応用」を行いました。今でこそ腫瘍PETは一般化してきましたが、全身スキャン装置の無い当時はまだ脳と心臓への応用が主流で、未開の分野を研究する喜びを感じながら、「肝細胞癌のDynamic FDG-PET」解析」で磯野可一教授より学位をいただきました。シニア出張として、2年間沼津市立病院に赴任し、小沢弘祐外科部長のご指導のもと多数の症例の手術を執刀し、様々な疾患の診断を学びました。1992年に再度帰局してからは2008年1月まで在局し、磯野教授・落合武徳教授にご指導いただきながら、教室開講からのテーマである食道癌の治療に携ることができました。2003年にはドイツ食道外科の中心であるミュンヘン工科大学病院と、ヨーロッパPET癌研究の草分けであるドイツ癌研究センターに在学研究員として留学させていただきました。これまで、磯野教授、落合教授をはじめ、同門の諸先輩方、同僚、研

究室員、千葉大学大学院諸教室の先生方よりお受けした沢山のご指導は私の大事な財産であり、これからは東邦大学で研修する外科の後輩に伝えていきたいと思っております。また今後、千葉大学医学研究院ならびにフロンティアメデイカル工学研究開発センターと交流しつつ、研究、教育、診療の大学としての3本柱を担っていく所存であります。外科人生の節目にあたり、「まずは始めること」はじめたらやめないこと」「人生は精一杯に」と、千葉大第二外科第二世代教授中山恒明先生の明快にして含蓄のある言葉を、今また唱和したいと思っております。

今後とも宜しくお願いいたします。

開催予定の行事をお知らせ下さい

学会、研究会、あのはな会、クラス会など種々の行事開催予定とその内容について同窓会事務局へお知らせ下さい。本会報に掲載致します。なお、本会報の発行月は1月、5月および9月です。

最終講義

私の歩んできた神経内科学の道

神経内科学

服部 孝道



私は昭和42年3月に千葉大学医学部を卒業し、翌月からインターンをこの医学部附属病院で始めました。当時はインターン闘争が激しい時で、私どもが最後のインターン世代となりました。そんな時代でしたのでインターンに対し特別な期待もしていませんでした。しかし、インターンの時

にまわった精神神経科(教授は松本胖先生)でお会いした牧豊先生(筑波大学の初代脳外科教授)が私にとって、後の人生を決める決定的なお人でした。牧先生は脳神経外科学だけでなく、神経学全般に関心があり、学生にも神経学の講義をしており、学内でも時々神経学の勉強会を主催されておられました。私も牧先生の講義を手伝ったり、勉強会に参加しているうちに神経

るようにして、ドイツ語や英語の書物を輪読しました。私が特に感銘を受けたのはDeMyerの神経診察学とBingの局所診断学の本です。これらの本を読んでいるうちに神経学を本格的に勉強したいという気が強くなってきまし

た。当時の日本は神経学に關しては黎明期といつてよい時期で、神経学を本格的に勉強するなら欧米に行くべきである、と牧先生や吉倉先生にいわれ、英国のロンドン大学神経研究所であるQueen Square病院に留学することになりました。Queen Square病院は実にすばらしいところでした。ロンドン大学には当時12の医学部があり、専門分野毎に研究所をもっておりまし

た。Queen Square病院には神経学に関するほとんどすべての分野があり、世界中から多くの人々が勉強にきておりました。私はクリニカルコースという臨床医向けのコースに属しました。きちんとしたカリキュラムがあり、朝から夕方まで、臨床に即した教育がなされておりました。様々な神経疾患患者をみる機会がありました。私はQueen Square病院の2年間で普通の教科書に記載されてある疾患を

ほぼ一通り勉強することができたと思います。Queen Square病院には世界中から勉強にきているといいますが、米国で神経学や脳神経外科のレジデントを終えてくる人もおり、彼らが実に優秀であるのに驚き、自分も米国でレジデントをしたいと思うようになりました。そこで米

国の外国人向け医師国家試験に合格し、米国ニューヨーク州立大学バッファローで採用されました。米国でのレジデント生活はロンドンとは全く異なつたものでした。ロンドンでは学生でしたが、レジデントは給料をもらって働きます。開始は朝早く、当直も多い日々でした。しかし、レジデントが診た患者はあとで教官に必ず診てもらい指導を受ける、というシステムのため、多くの耳学問と共に臨床の実力をつける良い機会でした。

主任教授のDavid Smith先生はいくつかの教科書を書かれていてる方で、非常に優れた方でした。もうひとりの教授であるSchlagenthan先生はかつてドイツの軍

人であり、日本人と一緒に戦つた、日本人は戦友であるというような感情をもつておられ、私ばかりがいていただけました。レジデント生活が終わりに近づくとともに米国でさらに研鑽を積むか、迷いましたが、千葉県の松戸市立病院に神経内科の診療科ができ、そこに就職できるという知らせを

十束支朗先生からもらい、帰国することにしました。松戸市立病院では当初ひとり医長でしたが、後に旭俊臣先生を迎え、二人体制になりました。この間、整形外科の井上駿一教授からは非常勤講師にしていたいただき、整形外科の中で神経内科の外来をさせていただきました。また、整形外科には全国から稀な脊椎疾患が受診していましたので、それらを診て勉強をする機会をいただきました。そうこうしている内に千葉大学に神経内科ができ、

平山恵造先生が教授に選出され、昭和53年の10月から病院で診療が開始され、私は3人の助手のひとりとして採用されました。大学では研究もしなければなりません。私は泌尿器科にいた同級生の安田耕作君にさそわれ、神経因性膀胱の研究を始めました。この研究は順調に進み、昭和60年には医学書院から安田君と共著で「神経因性膀胱の診断と治療」という本を出版いたしました。この本は改訂版を出すほど良く売れました。

私は平成7年9月に教授に就任いたしました。教室の方針として、研究に力を入れ、若いひとに魅力ある教室を作ると共に、国際的に活躍できる人材を育成したいと考えました。そして機会をみては神経内科の魅力を学生に話しました。その結果私の教授在任期間に65名が入局してくれました。

研究グループとチーフは神経因性膀胱グループ 榊原隆次、内山智之 神経病理グループ 新井公人 核医学グループ 篠遠 仁 神経症候・頭痛グループ 福武敏夫

臨床神経生理・末梢神経グループ 桑原 聡 自律神経グループ 朝比奈正人 重症筋無力症グループ 川口直樹 多発性硬化症グループ 森 雅裕 画像グループ 伊藤彰一 運動失調症グループ 新井公人、金井数明 認知症グループ 吉山容正

などであり、現在活発に活動しております。海外留学経験者は10名を越え、大学院修了者は合計36名で、そのうち12名は短期修了者でした。教室の英文原著の数も徐々に増えて、ここ数年は年間40以上あり、その合計インパクトファクターも毎年100を超えており、当初の方針をほぼ満足できる結果かと思えます。

終わりに、神経学の面白さを初めて教えてくださった故牧豊先生に、これまでご指導いただいた多くの先生方に、そして一緒に勉強してきた神経内科教室の仲間、最後になりましたが、長い間多大なご助力をいただいた千葉大学医学部および附属病院の皆様にごより御礼を申し上げます。

終わりに、神経学の面白さを初めて教えてくださった故牧豊先生に、これまでご指導いただいた多くの先生方に、そして一緒に勉強してきた神経内科教室の仲間、最後になりましたが、長い間多大なご助力をいただいた千葉大学医学部および附属病院の皆様にごより御礼を申し上げます。



服部 孝道教授 最終講義

医学部謝恩会での挨拶

るのな同窓会会長 伊藤 晴夫(昭39)

平成19年度千葉大学医学部学位伝達式が平成20年3月24日(月)午後1時30分より亥鼻キャンパス記念講堂において執り行われました。また午後6時より三井ガーデンホテルにおいて謝恩会が行われました。

皆様、ご卒業おめでとう御座います。希望に満ちていることと思います。将来、大学者になるか、臨床の名医になるか、地域医療に貢献するか、大病院長になるか、億万長者になるか、あるいは趣味を生かした余裕のある生活をエンジョイするか、それぞれ夢を抱いていることと思います。いずれの道でも結構です。しかし、ここで忘れてはならないことは、皆様は社会のなかでもかなり恵まれた位置にいるということです。高等教育を受けられたのも、皆様の能力も勿論ありますが、家庭環境、その他にも恵まれていたからです。このことに感謝し、これからの基本的な態度として弱者への配慮ということを基本に行動するようにお願いしたいと思います。すなわち、今後は恵まれない方々が多いことを認識して、社会のために奉仕す

る、あるいは社会を良くする努力をしていって欲しいと希望します。

現在は防衛省をはじめとした公務員の驚くべき腐敗、年金問題、建築偽装、食品偽装など憤慨すべき多くのことが明らかになってきています。これでは、医療崩壊だけでなく、日本という国あるいは社会はどうなってしまうのか心配です。しかし、考えようによつては、最近になってようやくこのようになってきたようにも思えます。以前よりは良くなってきているのかも知れませんが、希望が無い事は無いのです。市民一人一人の意識が社会を変えて行くのだと思います。皆様方は自分で思っている以上に影響力のある立場に立っています。格差社会とも言われ、上流と下流に分かれていく現状を変えていくような意気込

みを忘れないで頂きたいと思えます。いかなる社会体制でも平等ということは難しいことです。これは共産主義でも変わりません。良い社会を作るのは社会体制の如何に係らず一人一人の人間にかかっているのだと思います。

さて、るのな同窓会は全国でも屈指の規模と歴史を誇っています。るのな会の目的は規約にも有りませうように、一つは会員の親睦と医道の昂揚であり、もう一つは千葉大学医学部の支援であります。医学部が輝いていなければ会員の親睦も覚束無いでしょう。現在でもるのな同窓会は、図書館に対する補助金、若い研究者に対する奨学金、留学生支援など幅広い支援をおこなっております。現在の大きな問題は、学生が合宿やサークル活動なども行える同窓会館設立です。このような大学のシンボルとも云える建物は強く求められているものと考えます。また、皆さんが研修医として外の病院に行つたとき、あるいは外国留学したときに同窓の先輩や同胞が居ることは心強いものです。良い意味での団結を強めるべきです。

委員会を新設して、大学の外部にいる方々に対しても支援を行つていこうとしています。これまで千葉大学医学部からは立派な方が輩出してあります。同窓会報でもそのような方々を紹介してきましたが、今後も続けたいと思います。皆様はさらにそれ以上に活躍して頂きたいと思えます。私がシカゴ大学に留学していた時に、その年のノーベル賞を平和賞以外すべてシカゴ大学が独占したことがあります。これは日本では難しいでしょうが目標は大きく持つて頑張つてもらいたいと思えます。

るのな同窓会で年3回発行しています会報は、鈴木信夫教授などのご努力により充実して来ましたが、今度はホームページを充実させて若い人にも興味を持って貰えるようにしたいと思えます。興味をお持ちの方は是非ともホームページ作りへ参加して下さい。同窓会では若い力を必要としております。

以上、簡単ですがお祝いとお願いの言葉を述べさせていただきます。

謝恩会風景



叙勲を機に

思うこと



金子 敏郎 (昭28)

このたび秋の生存者叙勲を拝受した。特別な功績があったわけではないのに、この機会を頂いたのは皆様に支えられて附属病院長職を兼務させて頂いたためと思われる。

しかし病院長としての当時の対外活動が大学病院のあり方に大きな転機を与えてしまったのではないかと反省し、叙勲を機に忸怩たる思いを加速している。

平成4年7月には改正医療法の政省令に関する検討が医療審議会で大詰めを迎えていた。その中で特定機能病院の発足については大学病院側と厚生省の間に大きな隔たりが存在していた。大学病院側として千葉大、東大、医歯大の在京三大学病院長が主軸となつて、文部省医学教育課との密な連携を保ちながら厚生省の三局長や医療審議会メンバーと再三再四交渉を続

けた。

当時のわれわれの交渉に臨む基本姿勢は日本医事新報No.3564(平成4年)に掲載されているところであるが、大学病院に課せられた使命とは国民に良質な医療を提供するために、教育、診療、研究を三位一体として着実に実施し発展させることであり、例えば特定機能病院に義務づけられた外来制限のための紹介率などの設定は、教育面で著しい支障を与えるものであるという考え方であった。

受章にあたって

鹿山 徳男 (昭29)



しかし昭和63年来厚生省が大学病院の医療費削減を声高に呼び続けている流れには抗しきれず、「紹介率は全国一律の設定はしない」という結論で決着してしまつた。現在の大学病院が特定機能病院として医療法上の「しぼり」を受けていることが卒前、卒後の医学教育や医学研究に大きな障害を与えているのではないかと心配し、自責の念にかられている。

今振り返ってみると川喜田先生が示された医学、医療の本質を世に強く訴える力が我々には弱く、また大学病院の進むべき方向性を示さなかったことが悔やまれてならない。

平成19年の秋の叙勲にあたり旭日双光章を頂くという光栄に浴しました。保健衛生功労によるものであります。私は昭和50年開業してました群馬県太

理解されていなかったのがあります。噂の様な本当の話で診療を通して整形外科への誤解を払拭するのに夢中でした。開業10年、千葉大の5年先輩が医師会長に就任しその縁で理事になりました。それからが私の医師会活動の始まりであります。副会長を三期やったのち、平成3年から9年までの6年間を医師会長として太田市の行政と緊密に連携して市民の保健衛生に努力をいたしました。



叙勲に思うこと

武田 従信 (昭33)

書きましたが会員の全員の意識が高く、私は只その席にいただけのような気がしております。そのような訳で医師会全

太田市医師会の古い記録を調べますと明治38年医師会役員が集まつて「ベスト」の予防について話し合っています。また会員が交代で地域の住民に講話会を行つて衛生知識の啓発を行つたとあります。このようにに医師会は毎日の診療と共に行政と組んで時の政府の保健衛生施策を具体的に実行して参つております。医師会と行政の歯車がうまく噛み合うのは医師会会員の諸先生が、その意義を自覚しているかどうかにかかっていると思つております。その信念によつて会長・副会長の12年間を会員の意識の向上に勉め、また行政との融和を図ることに尽くしました。尤もらしく

受章の挨拶

阪 信 (昭35)



員の受章と私自身は受けとめております。ただ代表に過ぎないのだと心に深く留めております。

この間、医療法人会の活動を通じて、現在の医療制度が持つている諸問題、特に税制や新しい医療制度が制定されるたびに、それに適合させることの難しさ、乗り越えなければならぬハードルの高さ、さらに看護基準制度、医師研修制度に代表されるように、その結果起こるであろう医療現場での将来の事象予測と、

顧みますと、昭和61年に現在の千葉県民間病院協会からの指示を受けて、全国の多くの医療法人によつて組織されている日本医療法人協会に理事として出席することにになり、爾来20年余り医療法人制度の改革、育成に関わつてまいりました。現在は常任理事として毎月行われる理事会や、幾つかの医療関連団体の協議会へ委員として参加させてい

昨年春の叙勲で旭日双光章を受章しました。ゐのはな会員の先輩諸先生のご指導のおかげです。ありがと

実際に起こつた制度と現状との乖離と混乱を知り、また勉強する機会を得ましたことはとても有益でありました。

昨今、新聞紙上に医療制度関連の報道記事やテレビでの特別番組を見るたびに、低医療費政策を採らざるを得ない国の経済事情と、多くの地域で新しい医療政策を実行するに足る医療環境が整っていない現状にどう対処したら良いのか、地域の半分以上の医療を行つている民間の医療法人をどうしたら新しい医療制度のうえに軟着陸させ医療を進展させることが出来るのか、其の難しさを叙勲を受けて以来ことさらにつくづく感じられてなりません。

大学に残らずインターン修了後、2ヶ月でさいたま市内に内科・小児科を開業しました。父の死後で第七代の阪医院長となりました。

このような大胆なことが出来たのは、埼玉県川越出身の昭17年卒の西沢英



第二回東医体優勝目前の野球部員
昭和34年4月近藤監督を囲んで

左より
後列：植松、岩倉、香西、栗原、宍倉、伊藤、堀口
前列：各務、山崎、安達、近藤 (監督)、阪、入枝、塚田



優勝候補は甲子園出場の
それが縁で50年近くも経
つのに私は市の少年野球
連盟の会長
をしており
ます。
思い出を
つづり、挨
拶としま
す。

三郎先生が院長であった多
古中央病院でアルバイトを
したおかげです。外科の沢
田先生、内科の松垣先生に
も医人としての覚悟と人生
観を徹底的にしこまれました。
ありがとうございます。お
ります。

三選手をもつ岩手医大でし
た。40度の炎熱の中、連日
の試合で皆くたくたでし
た。
決勝は岩手医大と千葉
大。9回裏、2死満塁でカ
ウント2ストライク3ボー
ルです。得点は3対2で千
葉大がリード。相手のバッ
ターが一振り。球はライ
ト、センター間の大飛球。
負けたと思いつつ、ライ
トを守っていた私はフルス
ピードでバックして大ジャ
ンプ。伸ばした左手のグラ
ブにボールは「パシッ」と
入りました。勝った、勝つ
た。千葉が優勝した。番狂
わせでした。

叙勲を受けて

井上 雄元
(金沢大・昭39)



皆さまのご支援により、
昨秋、旭日双光章の栄を受
けさせて頂きました。

本当にありがとうございます。
これも偏に「あの
な同窓会」の先生方をはじめ、
多くの先生方の後押し
があったからこそと思つて
おります。私は昭和31年に
千葉一高を卒業し、昭和39
年に金沢大学を卒業いたし
ました。卒業後も金沢で研
修生活を、とも考えました
が、千葉県育ちの私には、
どうしても北陸の悪天候に
馴染めず、卒業後直ぐに千
葉へ帰って来てしまいました

た。そして国立千葉病院で
研修させて頂きました。
当時の院長は鈴木五郎
先生で、放射線科の故高瀬
潤一先生には殊の外お世話
になりました。ありがとうございます。

活動があったからこそでは
ないでしょうか。また、千
葉大学卒業ではなく他大学
卒の私にとっては、周辺に
いる先生方が未知の方々ば
かりでした。県医師会に在
籍しての10年間は、比較的
多忙と云われる保険担当理
事を拝命しました。その
ために地区医師会の先生方
との面識が多く出来て有難
かったです。

今、自分の歩んで来た道
を振り返った時に、父が早
世したことを始め、様々な
荒波がありました。しか
し、私にとっては全てプラ
スに影響したと思つていま
す。今後も人生の荒波があ
ることとは思いますが、全
て前向きに立ち向かって生
きたいと思っております。
今後ともご指導、ご鞭撻
の程、宜しくお願いいたし
ます。
本当にありがとうございます。

平成20年度文部科学大臣表彰 科学技術賞受賞

理解増進部門
「小中高校生等への微生物学の
最新知識の紹介とその理解増進」

千葉大学大学院医学研究院
病原分子制御学

教授 野田 公俊



会員の活躍報告



植田育也先生

1月23日の毎日
新聞で「ため池転
落、心肺停止3歳
男児が無事退院」
との報道で、植田

育也氏(平3卒、静岡県立予供病院小児集中治
療センター長)の活躍が報道されました。
本年1月2日に愛知県設楽町で氷の張ったた
め池に落ち心肺停止状態になった男児がドク
ターヘリで約
80キロ離れた
静岡県立こど
も病院の小児
集中治療セン
ターに搬送さ
れ、「脳低温
療法」を施し
たことが奏功
し、救命され
ました。発見
時に体温が28
度まで低下し
ていたこと、
ドクターヘリ
による迅速な
対応もあり、
長時間の心肺
停止にも拘わ
らず後遺症も
無く退院しま
した。



静岡県立こども病院
Shizuoka Children's Hospital



(編集部)

各地のなのはな だより

二年続きの開催になった 茨城のなのはな会

隔年(西暦偶数年)で、水戸とつくば交互に茨城のなのはな会は開催されてきました。平成18年11月、水戸京成ホテルで開かれた定例のなのはな会においては、千葉大学大学院医学研究科、鈴木信夫教授から、「生体に加わるストレスとその解消法について」、基礎研究を進めてきた学者の立場から幅広い内容のご講演がありました。また千葉大学医学部なのはな同窓会会長、渡辺武先生はじめ、関東周辺の医師会長先生方にもご参加をいただき盛大な同窓会を開催することができました。しかし、ご多忙な日本医師会長唐澤祥人先生のご都合は合わず、平成19年7月15日に改めて唐澤会長をつくばにお呼びして同窓会を開催することができました。折りしも参議院選挙を控えて茨城医師会は微妙な立場にあり、このなのはな会開催が政治的な講演と見られかねない状況でしたが、楽しい同窓会とな

りました。ご講演は、同級生の小山哲夫先生(昭43)の司会で、少子高齢社会が抱えている状況の分析から始まり、国の医療政策の問題点、それに対する日本医師会の政策などに関するものでした。引き続き指定発言が、診療所の立場から佐藤忠夫先生(昭29)、一般病院の立場から竹島徹先生(昭41)、自治体病院の立場から武藤高明先生(昭49)、そして病院事業管理者の立場から中田義隆先生(昭36)よりなされました。いずれ劣らぬ論客による指定発言のため、さながら学会のような講演会となりました。懇親会では新しく千葉大学医学部なのはな同窓会長に選ばれた伊藤晴夫先生から同窓会のお話があり、懇親会では一同、若き時代を懐かしみ和やかな時間を共有しました。石川詔雄(昭47)

第7回 東京のなのはな会 耳鼻科会

平成19年7月26日、ホテルモントレ銀座にて東京のなのはな耳鼻科会が開催されました。東京のなのはな出身の開業および勤務医の耳鼻咽喉科医が年一回集まり講演、勉強会の後、懇親会



を催していますが今回で7回となります。千葉大耳鼻科の同窓だけでなく、千葉大を卒業して他大学の耳鼻科に入局された先生の親睦の場になっています。当初は東京に在住や勤務の先生が中心でしたが、近年は千葉、埼玉、神奈川在住の先生方も懐かしさと情報交換も兼ねて集まるようになり

出席者は写真一列左から堀内正敏(昭45)、吉原俊雄(昭53)、林崎勝武(昭44)、神田敬(昭35)、宮下久夫(昭38)、小林伸行(昭41)、登坂薫(昭50)、永田博史(昭57) 二列目左から岩本容武(平5)、諸田英夫(昭55)、三橋敏雄(昭59)、晝間清(平元)、大谷地直樹(昭58)、日野剛(昭58)、吉田耕(平3)、三浦

巧(昭57) 三列左から加藤雄一(昭58)、笠井創(昭52)、持田晃(昭59)、本杉英昭(昭62)、大野一人(平6)、留守卓也(平7)、大谷聡(平7)、渡部涼子(写真撮影前に市原市開業の和田二郎先生(昭53)は所要で一足先に帰宅) 懇親会後は有志が二次会に足を運び大いに盛り上がりました。平成20年も同時期ころに開催し、各々の近況や情報の交換を行う予定とした。吉原俊雄(昭53)

クラス会

24年卒クラス会(昭24)

昭和24年卒業のクラス会が平成19年10月14日(日)、JR錦糸町駅横の東武ホテル「レバント東京」に於いて開催された。現在、連絡のつく同級生は70名となり、今回の出席者は12名だけとなった。開会に先立ち、今年旅立たれた氏家恒、木村成隆、百武伸雄、藤縄和聡、中山和の5名の冥福を祈って黙祷をささげた。 今回、種々の不調をかかえて出席できなかった方から、近況などがありましたので報告いたします。 ・大学とは絵の方でつながっています。千葉の同窓は長生きのようですね。(I氏) ・都合がつかずどうしても出席できません。横濱市医師会の囲碁会があり、幹事のため欠席します。(K氏) ・体調不良、治療中、闘病中などで欠席します。 ・健保組合で健康指導をしています。シルバー大学で月3回、世の中のモロモロの講義を聞いています。(Y氏) ・先約があり欠席、幹事役の方ご苦勞様、年相応に元気でゴルフ、旅行を楽しんでいます。(M氏) ・家内の体の不調で欠席します。(K氏) ・生まれ故郷の群馬に帰ります。引越し準備で出席できません。来年は是非。(K氏) 皆様のご健康をお祈りいたします。 出席者・賀川興夫、小杉秀雄、佐藤晴美、田中光、寺島東洋三、中島令一、野平哲也、樋口豊、福永和雄、北条弘、師尾武、長澤仁一(長澤仁一)

「なのはな二七会」旅行記(昭27) 私達のクラス総勢19名が、紅葉の美しい伊豆半島の赤沢温泉に、11月10日一泊旅行をした。昭和23年医学部入学のクラスは、今年が丁度60年目にあたり、年齢も84才から、来年は全員80才に達する時となった。 特急リゾート・アクティ号に乗りしたときから、旧制高校の寮生活の雰囲気を感じた。よって、60年を遡るタイムスリップがはじまった。温泉の大浴場から海と船と岩場を眼下に眺めながら話はつきない。 全員旧制高校の寮のように和室に円座して、アララギ同人でプロ級の写真家でもある住吉君からスピーチは始まった。「よい写真は見る人の心に物語りを創る作品。短歌などにおける「写生」は模写ではなくて、「生を表現すること」などの考えを鏝めた「生活における美学」の話。 次いで、なのはな同窓会会長や千葉県医師会長として、永年努力した渡邊(武)君から同窓会のあり方・医療実践についてあれこれ。予防ワクチンの第一線で活躍してきた権威、橋爪(司馬)君からは、最近の

ワクチンのトピック。
静岡市医師会会長をして、
た松浦君は「介護の諸問
題」を論じ、その数日後に
日本医師会の最高賞の榮譽
を受けた。

服部君は臨床医として70
才からスタートして、10年
以上研究している大腸内視
鏡の挿入の改良を熱心に説
く。

現千葉県ののはな会会長
の大濱君は同窓会館建設を
めぐって、同窓会とその母
体の医学部の接点を扶る。

日本医学協会副会長の宮
川君は、わ
が国の医療
の現状につ
いて諸問題
を指摘。

クラス会
の常任幹事
の小沢君
は、3冊目
の出版を終
えたばかり
で「闘
病記」「ク
ラス会の今
後」。

その他、
参加者全員
が医師歴55
年間の経験
に基づいて、女性も
全員発言し



で熱心な談論は一夕一夜で
は収まらず、翌早朝も翌昼
食割烹「和むら」の離れで
も喧々諤々。

そして各スピーチの間に
は、必ず吉野プロによる歌
唱指導と懐かしい歌の斉
唱。「何十年ぶりで思う存
分歌って楽しかったよ」と
は何人も級の弁。

翌日大室山山頂、さくら
の里、城ヶ崎つり橋、その
海岸をめぐってバスが横浜
に到着するまで、歌声は尽
きなかった。
最後に住吉君の最近作と

60年前の旧作を紹介して終
わる。

半日の診療終えて

椅子に倚り

ひる静けさを

まどろみにける

大正のアララギ読みて

坐し居れば

心豊かに

なりにけるかも

楽しかりし旅は

数々にけれど

旅あらじと思ふ

けふにまされる

出席者左から

前列・吉野真紀、広田和俊

中列・渡辺武、町澤清太

郎、松浦徳久、小沢昭司、

同夫人、大浜夫人、関口夫

人、宮川夫人

後列・渡辺勲、橋爪壮、藤

田龍五郎、関口和夫、大濱

博利、服部了司、宮川昭平

(広田和俊)

昭三一會 (昭31)

大学を卒業して51年目の
クラス会がJR錦糸町駅横
の東武ホテル「レバント東
京」で平成19年10月20日
(土)に開かれました。出
席者は会員21名、同伴夫人
5名でした。

この年の幹事代表、香田
真一君の開会の辞にはじま
り、9月3日逝去の故小高
通夫君に黙祷を捧げまし
た。つづいて小野清四郎君
が事務局として前年の会務
報告と幹事の森博志君が春
の叙勲で瑞宝中綬章を受章
されたことを皆に伝え祝い
ました。

このあとは香田君の軽妙
な司会のもと、各人の近況
を披露しあい、なごやか
で笑いの多い
宴でした。こ
んな中で上原
すゞ子さんの
監修「小児呼
吸器感染症診
療ガイドラ
イン(2007)」
の紹介があ
り、長年の学
問の成果と熱
意には感服し
ました。多く
の友人から
種々な話が聞
け世の中が拡
がる刺激を受
けました。

われわれを
サービスした
ホテルマンが
「本日のお客
様方は当方で
は稀な元氣な
方ばかりで驚



きました」とのことでした。
今後しばらくは中心的事
務は小野清四郎君が引き受
けて下さり、次回の幹事は
宮川栄次君、水岡慶二君、
上原すゞ子さんとのことで
す。「君は誰?」と聞かれた
の「私は誰?」と言ひ出さ
ない内に再会しましょう。

出席者左から
前列目・志村公男、志村夫
人、庵原夫人、北川夫人、
小野夫人、上原すゞ子、香
田夫人、五味渕夫人、関光
倫

中列目・蟹澤成好、小野清
四郎、香田真一、船橋茂、
白井敏雄、松丸信太郎、北
川定謙、山野元
後列目・庵原昭一、森博
志、空保文彦、五味渕諒一、
宮川栄次、加藤繁夫、西澤
護、高野昇
(円内)・左・井幡宏
右・杉山伸子
(庵原昭一)

50周年記念
みふみ会 (昭32)

昭和32年に卒業したクラ
ス会である我がみふみ会も
今年で50周年を数えたの
で、会場を千葉市内のしか
も長年使った事のある京成
ホテルミラマールにて行な
う事とした。開催は平成19
年10月21日、日曜日正午と
した。さらに今回の案内状
には50周年記念みふみ会と
銘打って連絡したところ、
はからずも現存している63
名のうち36名の出席という
50%以上の方々がかられる
こととなり、かつてない賑
わいとなった。

初め、久しぶりに出席され
た方が数人おり懐かしい思
いかられた。まず野口幹
事より住所録の説明、昨年
亡くなられた新井君、佐々
木君および和賀井君につい
ての報告があり、黙祷が行
なわれた。次いで遠路、九
州よりこられた谷川君より
50周年記念の本会の開催さ
れた慶びの挨拶をいただいた。
さらに富山県からこら
れた野本君に乾杯の音頭を
とってもらい開宴した。

さらに会をすすめる平嶋幹
事からこのたび50周年記念
事業としてとくに企画がな
されなかったもので、それ
かわるものとして、今回ご
出席をいただいた方の全員
に50周年記念の感想、過去
のエピソード、近況報告な
どをお話しいただくよう提
案がなされ、米国からこら
れた本山君からはじめて、
一同36名全員からお話を
いただいた。このあと亡く
なられた佐々木君について
は福田君から、また和賀井
君について蟹沢君からそれ
ぞれ経過説明がなされた。
会の終わりに近づいて、喉
の具合がよくなったという
神田君にオペラのアリアを
歌っていただき、さらに次
回の幹事の村上君が木更津
開催を紹介して閉会した。
出席者左より



前列・高倉永政、福富久之、戸川清、高橋柳子、蟹澤晴子、高橋英世、谷川久一、福田陽、野本昌三、川口幸夫、明石康三
 中列・平嶋毅、仙波恒雄、岩瀬亀夫、川島裕、神田取茲、中村仁、吉田豊、横尾敦夫、芳賀士郎、夏目隆一、

今井兆佳、水流英雄、堀敬明
 後列・野口照義、矢野和之、村上和、藤田真、金井塚道節、西村忠雄、瀬田勝雄、中村常太郎、石川正士、布川武男、本山悦郎、
 写真外・牧野耕治
 (平嶋毅)

山紫会 (昭34)

平成19年11月17日(日)、快晴。昨年に続き東京丸の内ホテル7階「椿寿」にて、加賀料理を楽しむ昼の山紫会が開かれた。級友30名、同伴の奥様2名の計32名が出席し、盛会であった。しかし、昨年46年振りに奥様の押す車椅子で出席した齋藤剛輝君が、会の直前に心筋梗塞で不帰の客となったのは、誠に残念であった。心より冥福を祈ります。

会は、多田富雄君の元気な「カンパイ」の発声で始まった。時がたつにつれ、多くの話が自分の健康についてのことに収斂していった。全国医師国保組合員の疾病分類(平成17年度)によると、死没医師上位3疾患は、新生物(32%)、循環系(28%)、呼吸系(21%)であり、死亡者の平均年齢78歳であったが、この年齢は前年度より0.1歳伸びていた。学友諸兄姉には、まだまだ大いに希望が持てる数字ではある。

だが、現に病と闘い、「生とは何か」「死とは何か」と悟りを開いたような話もあった。級友はどういう訳か、罹患中の疾病分類では5%にしか過ぎない尿路性

器系患者が多いらしい。この会では、プライバシーはない。自分の病歴を進んで開陳する者が多く、最後は、前立腺疾患のシンポジウムとなった。講師は石川堯夫君で、PSAについての詳細な講義と質疑応答となった。

久し振りに出席した小林充尚兄は学生時代は、植村兄と並んで英語の達人、米留留学時代防大産婦人科教授を通して学生の医学における英語力の充実には数々の著書を書いて熱心に取り組んできたが、最近植村研一兄と共に母校で学生の英語教育に関わった経験に触れ、学生の勉学意欲の低さと、教育側の見識の欠如を嘆いた発言が注目された。もっととグローバルに取り組み、飛躍が期待出来ないぞと辛口であった。比較的学者の輩出率の高い山紫会らしい雰囲気ともなっ



た。それにしても、鷗外は面白いことを言ったものだ。「焼酎が利いて来る。血が頭へ上がる。話しが下へ下がって来る」。前に座っていた学生時代のYさんは、私には関係がないわとばかり、美味しい焼酎がお好きなのよであった。かつてのイメージとの落差に驚いた。

のだが、彼女の話は上へ上がつて「麗しのウイーンの想い出」となった。

5年前、ギリシャを旅したとき泊まったホテルの二つの会場のことを思い出した。一つは「アリストテレス・ホール」という大きな会議室、他は「シンポジウム」というレストラン。「シン」とは「共に」、「ポ」とは「飲む」という意味で、「シンポジウム」とは「共に酒を飲みながらアリストテレスのようにとことん議論することだ」と、テッサロニキ大学出身のガイド氏が説明してくれた。

「椿寿」で展開されたこのときのシンポジウムこそ、友人の本音を聞くことが出来た非常に有意義なものであった。

2009年は、卒後50周年記念の年である。松本博雄幹事長の発案で、千葉市の「ほてい家」での開催が決まった。いつもながら、山紫会の事務を一手に引き受けてくれる谷嶋俊雄君に感謝します。

出席者左から
 前列・谷嶋俊雄、多田富雄夫人、多田富雄、高橋功夫人、清水精子、館野之男、原沢寿三男、原久彌
 中列・飯田陽子、清水順三郎、飯田静夫、高橋功、永

井順、鈴木博孝、横山哲夫、松本博雄、片山純男、山田明義、西川義明、荒木英爾、吉井功、石川堯夫
 後列・高木良章、遠藤幸男、横山宏、吉川保雄、小林充尚、長尾佳子、神田芳郎、植田伸夫
 (吉井功)

昭和38年卒 クラス会 (昭38)

平成19年11月23日・24日の2日間にわたって沖繩で行なわれた。沖繩県浦添市で開業している嶺井進君が幹事で、嶺井君の経営する「ホテルサンライズ知念」が会場であった。ホテルは高台にあり、目の前はコーラルブルーの海が広がり、近くには「知念海洋レジャーセンター」や沖繩の開闢神話にかかわる世界遺産「斎場御嶽」などがある。

本州は気温10度なのに沖繩は25度で本州の夏のような暑さであった。参加者は22名(同伴夫人を含む)。夕食はゴーヤチャンプル、豆腐よう、海ぶどう等の沖縄料理や泡盛に舌鼓をうちながら、お互いの近況報告を行なった。人生の時の流れの早さ、多様さ

をしみじみと感ずるものであった。

翌日はゴルフ組と観光組に分かれた。ゴルフ組は14名で「那覇カントリークラブ」でプレイし、観光組は8名で「沖縄海洋博記念公園」「首里城」や開館間もない「沖縄県立美術館・博物館」を見学した。南国のすばらしい環境の下で旧交を温めた誠に楽しいクラス会であった。

出席者左から
前列・玉置夫人、三井夫人、加藤夫人、香西夫人、松井夫人、嶺井夫人



中列・嶺井進、沖田正彦、松井宣夫、野本高志、三井静、栗原伸夫、玉置哲也
後列・三木亮、成瀬孟、林直諒、香西襄、木下昌尾、尾崎賢太郎、加藤友衛、欄外・藤本重義夫妻、野本(高)夫人 (栗原伸夫)

「毎年クラス会をやるのもいかなものか、持ち回りの開催とは言っても担当地域はそれなりに大変じゃあなかろうか」などという意見もあったように記憶するが、何しろ齢古希に迫ろうとする我がクラスである。「そうは言っても、毎年のほうが良いよ」という意見に押されていつの頃からか千葉、東京、神奈川、埼玉の4地域が開催することとなった。

40周年クラス会 (昭40)

今年は埼玉が幹事ということで常とは違う趣向で計画してみた。10月20日(土)の夜、秩父は長瀬・長生館に宿を取って純和風旅館でのクラス会を企画した。ゆったりと風呂につかり、浴衣に着替えてすっきり寛いで宴席に向かう。会席料理と地酒、畳に胡坐をかいて社員旅行の雰囲気が始まった。恒例の長尾、尾崎の弦楽器演奏に、隣で騒ぎ始めたカラオケの団体も勝手が違えばかりにしばし聞きはれる。宴席からは「去年よりも演奏の腕前が上がった。何よりも始まりと終わりがよくわかる曲で大変良かった」などと評判も上々。毎年プログラムに入れることを約束して大いに盛り上がる。近況報告を交えながら一次会はそのままカラオケ二次会へとなだれ込む。翌日の観光組とゴルフ組も、どちらも身体を労わる気配もなく延々と



続いた。千葉、東京、埼玉勢に加えて遠々信州から辛君が参加、神奈川勢の参加がなかったのがいささか寂しい所ではあった。

参加総数17名……、もう少し参加して欲しかったのになあ……。

出席者左から
前列・妹尾素淵、冠木徹彦、尾崎梓、遠山敬介、加藤元一、吉川広和、明星志貴夫、野口眞利
後列・栃木亮太郎、武者廣

2年ぶりにクラス会を開きました。昭和42年入学または48年卒業した仲間です。

ベビーブーム第1波である団塊の世代も還暦を迎えました。2月3日(日)の当日は関東にも大雪警報がだされ、足を奪われ欠席の方も数人でしたが福岡(矢加部茂君)、広島(竹中正治君)、岩手県(君塚五郎君)などの遠方からも参加があり38名の参加者でした。いろいろな医療現場で活躍しながらも、そろそろ後輩に次を託し、軸足を趣味のほうにも移しつつある同級生たちです。会場の新宿 京王プラザホテル42階からは展望を楽しむ予定でしたが、雪の降りしきる中の霧で視界ゼロでした。まるでスキーゲレンデにいるような雰囲気と和やかに始まりました。野村が幹事で司会をつとめ、クラス顧問でいらつしやった橋正道名誉教授が昔と変わらない

昭和48年卒業 クラス会 (昭48)

お元気な様子でごあいさつ、千葉大学医学部附属病院院長の河野陽一君が「千葉大学医学部・病院のいまと将来」紹介と続きました。医学部長の徳久剛史君も同級でありますが大学の用事で欠席となり用意してくださった資料を河野君が紹介しました。独立行政法人としての制約の多い中でも財政基盤を整え、将来の医学部・病院構想を進めているとの説明に同級生として嬉しく思いました。続いては横山淳一君(慈恵会医科大学第3病院糖尿病代謝内分分泌学)が「わたし風食の楽しみ方」と題して「地中海式食事と健康」の小講演を楽しませていただきました。おなかも刺激を受けて、乾杯の後横山君指導による健康に良いイタリア料理とワインで楽しく過ごしました。次回幹事は小川富雄(帝京大学小児外科)が幹事



となることを決めて、クラス会を終えました。少しでも余剰金が出たので千葉大学医学部のはな同窓会に寄付させていただきました。(野村 馨)

報道内視鏡

死因究明を目的としたCT検査について

医学部附属病院放射線科 講師 山本正二(平4)



オートプシーイメージング (Ai = Autopsy imaging) が千葉大で実施できるまで

会報147号の報道内視鏡で

岩瀬教授のインタビューが掲載されています。今回のテーマは附属病院で取り組んでいる死亡時画像検査についての紹介です。千葉大学では2007年8月から、院内の症例だけではなく、外部からの症例に対しても、病理解剖に付随した死亡時画像診断の受付を開始しています。千葉大での取り組みの記事は、海堂尊著「死因不明社会」(講談社ブルーバックス)にも掲載されています。現在の死因究明がいかにか危うい状態にあるのかの確に指摘されています。是非ご一読ください。

ここではまず、「法医学教室でもCT装置を持っていくのだからわざわざ病院内の装置を使って検査をする必要が無いのではないか」と考えている方もいると思うので、現在の病理解剖、司法解剖の現状を説明し、病院内でのAiを立ち上げた経緯についても触れたいと思います。

「ご存じの方も多いと思いますが、解剖は大きく病理解剖、司法解剖(行政解剖を含む)に大別されます。この2つは何が違うのかというと、病理解剖が遺族の承諾がないと実施できない承諾解剖であるのに対して、司法解剖が有無を問わず実行できる強制解剖であると言うことです。また病理解剖が「臨床診断の妥当性、直接死因の解明などを目的とした医療行為」であるのに対して、司法解剖が「裁判の証拠を得る手段の一つとして裁判官が命ずる解剖」という全く似て

異なる解剖だと言うことが背景にあります。こうした背景がありますから、病理解剖が厚労省管轄(お金は出してくれませんが)であり、司法解剖が法務省・警察庁管轄であることも当然のこととなります。この2つを分けるときに「異状死」という言葉が出てきますが、この言葉自体も曖昧で、臨床の先生方が考える異状死(何か治療上の問題があった症例など)と法医学者が考える異状死(自然死以外のすべてのものが該当する)のとらえ方にかんじ、温度差があるように感じます。

こうした言葉上で考えているうちははつきりしませんが、これを「病院内の死」と「病院外の死」と大きく分けてしまふと比較的話が分かりやすくなるようです(図1)。「病院内の死」は、私たちが多くの臨床科の先生方が遭遇する「死」であり、「病院外の死」はテレビなどでよく報道される、事件性のある「死」です。P&Sセンターの最終的な目標は両方を包括したものです。岩瀬先生が「病院外の死」を担当していただけなので(私も画像の読影に参加しています。また昨年度法医学会の

会員にもなりました)、私は「病院内の死」を中心としたAiに取り組み始めました。千葉大学では幸いにも病理学教室が充実しており、「病理解剖が行われる前に死亡時画像検査を実施しては」と思いつき、取得できた文科省の科研費を利用して、2005年10月、実際の運用にこぎ着けました。それ以降、継続して検査を実施し、利用していただいた臨床の先生方からは、高評価を頂いたのですが、なかなか検査件数が伸びませんでした。このため、院内だけではなく、千葉県下の病院

からも死亡時画像検査の依頼を受けてはどうかと考えました。内部だけではなく、病理医がおらず、大学に解剖依頼をしてくる病院からも検査を受ければ症例数が増加するのでは?と考えたのです。放射線科の下総先生などの協力を得てホームページを作成(<http://radiology.sakurai.ac.jp/Ai/>)し、県医師会の協力も得て、対外的にも情報を発信できるようにしました。しかし、2007年8月末の時点で実施した症例は25件程度です。期待していた以上の件数の増加は見込めませんでした。

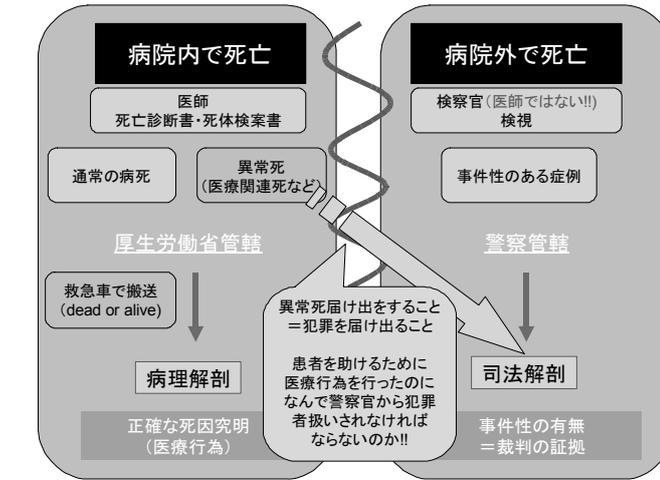


図1

「いったいこれは何故なのか?と考えていたときに目にした記事が、「全国の剖検数は死者数の3%程度」というものでした。100人のうち3人しか解剖にまわらないと言うことです。まさか千葉大ではそんなことではないだろうと思っていたのですが、2005年まで70症例以上あった解剖が、解剖室の改装などの悪条件もありましたが、2006年には29症例、2007年では51症例と以前と比較すると減少傾向にあると言ふことは否めない事実です。このように、「解剖の前に死亡時画像検査を持つてきても検査件数の増加は見込めない」という壁に突き当たりました。

画像検査を用いた死亡診断書の作成
これは私にとって、「どの時点で死亡時画像検査を実施すればいいのか?」という命題が与えられたようなものです。「病理解剖の前からもう一歩進んで」となると次は「患者が死亡した時」になります。死亡した時点で画像検査を実施すれば、今まで体表や病歴だけを参照にして作成していた死亡診断書・死体検案書が画像検査に裏打ちされた精度の高いものになる可

性能があります。実際に2007年11月に院内アナウンスをしてから12月末までで、検査件数は46件に達しています。ターミナルの患者はホスピスなどにまわっている現状を考えるとかなりの率であり、救急部の先生以外にもAiについてご理解をいただけた臨床の先生方に積極的に利用していただいているようです。この他にも死亡時画像検査を実施する事にはいろいろなメリットがあります。いくつか箇条書きにしてみます。

- 1. 正確な病理—画像対比ができる。これは今まで実施してきた病理解剖前の画像診断で証明されていた画像診断で証明されています。ターミナルとなった患者には医療費削減の問題もあり、ほとんど画像検査が行われなくなりました。ひどい場合は3ヶ月以上前の画像しかないという症例もあります。特に癌患者の場合、最終的な癌の広がりや病理解剖前に確認できず、また通常行われず、筋骨格系の部分の情報も得ることができ、今まで指摘できなかった骨転移が検出できるようになります。
- 2. 死亡時画像検査を元に、解剖の承諾を得ること

ができる。ただでさえ悲しみにうちひしがれている遺族に解剖の同意を得る事は、いくら医師の仕事だと言っても大変ストレスのかかる仕事です。「体に傷を付けない」、「比較的短時間で検査が終了する」画像検査については遺族の反対はほとんどありません。この画像を元に「この部分に病変があるから是非解剖させていただきたい」という説明が可能となります。ただ漠然とした解剖要請を行うより、説得力が増します。また頭部の解剖については通常の解剖と別に承諾が必要ですが、この部分も事前

3. 医療事故、医療関連死に対する客観的な証拠保全ができる。これは最近特に問題となっている医療事故、医療関連死に対する一つの解答になり得ると思われまます。今までの場合、医療者側に過失が問われた場合、刑事事件→司法解剖という流れしかなく、必然的に「病院外での死」同様に舞台が司法の場に移ってしまします。これはもはや「医療」ではなく、「裁判の証拠」を集めるための捜査になります。臨床サイドか

らすると「異状死を届けること＝犯罪を届け出る」と同義語になり、「患者を助けるために医療行為を行ったのに、なんで警察官から犯罪者扱いされなければならぬのか!」と考えるのも当然です。いくら検察されたものななかで、実際の裁判で敗訴する率が低くても、マスコミに暴露され、精神的なストレスを抱えたまま診療行為を行うのは医療の萎縮、後退につながるかと考えられます。ここで死亡画像検査のワンクッションがあれば、その時点で行われた医療行為を、そのまま保存することが可能となります。画像を見ながら、異状死届け出をするかどうかの判断材料ともなりえますし、その後、訴訟に発展した場合にも公正、公平、客観的な証拠となりえます。これらの画像を隠すことなく、遺族側に公表し説明できれば、和解しやすくなり、裁判まで発展するケースは少なくなると考えられます。法医学の岩瀬先生に聞いたのですが、検察が立件したがるケースは「遺族側が憤慨している」こと、「医療者側が医療行為に隠し事がある」ことだそうです。医療行為自体が「善意で行なう

行為であっても、治療は身体に侵襲を与える作業であり、医療の不確実性から期待した結果が得られぬ場合が多々ある」のですから、これらをすべて異状死とされてしまつてはかたまりません。画像情報、カルテなどを元にその時点で届け出をすべきか協議する必要があらうと思ひます。ただし届け出の必要がないと判断された症例の中には、医療行為自体にシステムエラーがあり、不幸な転帰を取つた症例があるはずで、かなり前の他病院での事例ですが、胃管栄養の薬剤を血管内投与してしまつた事例がありました。一つ一つの事例を取り上げると、確かにその時確認を怠つたことなどが原因として考えられましたが、事例が累積される

で、胃管栄養の薬剤を血管内投与してしまつた事例がありました。一つ一つの事例を取り上げると、確かにその時確認を怠つたことなどが原因として考えられましたが、事例が累積される

4. 千葉県全体で実施することにより児童虐待の抑止力となり得る。児童虐待についても社会問題となつていますが、有力な解決策が無いのが現状です。D.D.を

で、胃管栄養の薬剤を血管内投与してしまつた事例がありました。一つ一つの事例を取り上げると、確かにその時確認を怠つたことなどが原因として考えられましたが、事例が累積される

4. 千葉県全体で実施することにより児童虐待の抑止力となり得る。児童虐待についても社会問題となつていますが、有力な解決策が無いのが現状です。D.D.を

ATについて説明させていただきますました。この文章が、皆様のお役に立てれば幸いです。日本医師会などでもD.D.の検討会が立ち上がり、そのモデルケースとして千葉大学の取り組みが取り上げられています。現在は私の獲得した研究費と放射線科伊東教授、木川技師長のご助力で検査が実施されていますが、できれば病院全体として費用を含めて取り組んでいただければと考えています。宮崎教授以下、金澤師長の協力もありリスクマネージャーを通じて院内での実施システムはすでにできあがっています。「お金が付いてないから検査をしない・できない」という意見をよく聞きます。こういったネガティブな考えを転換して「精度の高い死亡診断書の作成」「医療訴訟などに対するセルフディフェンス」としてとらえていただき、D.D.が今後、千葉県下の各病院に展開できればと考えております。

4. 千葉県全体で実施することにより児童虐待の抑止力となり得る。児童虐待についても社会問題となつていますが、有力な解決策が無いのが現状です。D.D.を

千葉医学雑誌84巻 1 号目次

総説	「魅力ある大学院教育」イニシアティブ (大学院GP-Good Practice) 「情報集積型医療創薬を担う若手研究者の育成」 — 本教育プログラムの概要と整備 —	田村 裕
講座	江戸の腑分と小塚原の仕置場	石出猛史
原稿	No-touch Laparoscopic Anterior Resection for Colorectal Cancer Harufumi Makino, Shin-ichi Okazumi, Shin-ichi Miyazaki Hideki Hayashi, Hideaki Miyauchi, Satoshi Chiba, Ryouyu Mochizuki Takanori Shimizu, Masato Endo, Yoshifumi Matsui, Yuji Sugamoto Takenori Ochiai and Tatsuo Igarashi Minimal invasive estimation of blood pressure for continuous monitoring Shinji Kondo, Ichiro Shimoyama, Akio Yoshida, Hidekiyo Yoshizaki 大殿筋穿通枝皮弁による仙尾骨領域の再建 長谷川正和 黒木知明 秋田新介 佐藤真嘉 宇田川晃一 吉本信也 一瀬正治	
症例	Implantation によると思われる器械吻合部の再発をきたしたS状結腸癌の1例 宇田川郁夫 セレストラRD 渡邊茂樹 菊地紀夫	
海外だより	ケンタッキー大学留学記 ボストン留学記 サンディエゴ留学記	坂本信一 萩野修平 村田 亮
学会	第1139回千葉医学会例会・第24回神経内科学教室例会	
編集後記		

千葉医学雑誌84巻 2 号目次

総説	「魅力ある大学院教育」イニシアティブ (大学院GP-Good Practice) 「情報集積型医療創薬を担う若手研究者の育成」 — 本教育プログラムの成果と評価 —	田村 裕
展望	頸椎性神経根症に対する治療 宮下智大 山崎正志 大河昭彦 国府田正雄 高橋和久	
原稿	Discrepancy of Cadmium Susceptibility Between Human RSa Cells and Variant UVR-1 Cells Zhongqiu Ji, Shigeru Sugaya and Nobuo Suzuki	
症例	発展途上国における口唇口蓋裂プロジェクトで経験した希な顔面裂と現地における治療上の問題点 石井啓子 宇田川晃一 力久直昭 吉本信也 一瀬正治	
海外だより	University of Cincinnati 留学記 アテネ留学記	久保木知 川本 潤
学会	第1150回千葉医学会例会・整形外科例会	
編集後記		



同窓会に期待する!! 地域社会の砦を守る同窓会の役割

―群馬大学医学部と千葉大学医学部を診る―

「のほな同窓会会長・伊藤晴夫が群馬大学学長・鈴木守と群馬大学学長室において、平成20年2月25日、1時間半に亘り対談を行いました。」

伊藤「若い人の同窓会離れが云われています。この対策としては2つあると思います。まずは、医学部に頑張ってもらいブランド力を高めることです。このために、のほな同窓会は医学部に対する支援を行っています。2つ目は、多くの同窓会員が歴史的とも云える業績を上げてこられましたし、現在でも素晴らしい活躍をしている方が沢山おられるということ、若い人や学生に知ってもらうことだと思います。本日お邪魔したのもその一環です。先生は学長に就任して二期目ですが、外部から見える新たな視点もあるかと思えます。千葉大学では創立135周年記念事業が控えており、

是非とも成功させたい気持ちです。のほな同窓会員数は8,000名を超えます。アメリカの場合、数人の大口篤志家からの寄付が寄付金額の90%以上を占めるといふ話も聞かれます。募金では、会員の寄付が主体となるべきだが、大口の方に対する顕彰について考えるべきだとの意見をいただいています。これについては会員の皆様のご意見を伺っているところです。群馬大学医学部内に設置された「石井ホール」についてご説明下さい。鈴木「群馬大学の石井名誉教授がお亡くなりになる前、多額の寄付をして下さいました。



寄付者顕彰額

私に例えて、3段階に分けています。最も多額の寄付を下さる方々は全体の10%ですが、その部分の寄付総額は全体の90%を占めています。しかし、人数的には全体の寄付金額の10%を支える方々が90%を占めています。この90%の方々が非常に重要な寄付者なのです。この仕組みを構築してからの募金活動を進めることが必要の様です。その次は、寄付者に対するメリットを明らかにすることも必要です。施設建設にあたっては、地方自治体に支援を依頼することも可能と思いますが、その際には一般の方が利用できるようにする。例えば、展示会などのイベントで市民が使える、地域のサークル活動などに利用できる構想を取り入れた施設とすることが必要でしょう。医学ミュージアムを常設するなどの企画やその大学を中心とした医学史を展示した例もあります。

伊藤「広く市民に開放して使ってもらい医学部・附属病院の歴史や現状が分かるような施設にすることが大切だと思います。のほなキャンパスは桜の名所でも多いので、市民が使用したいという要望は強いと思います。

鈴木「亥鼻界隈は市民の憩いの場になっているでしょう。前橋辺りは、地域医療を守るためにも大学を居心地の良い場所にしたくないと、群馬大学医学部を卒業しても地元に残らず、みんな出身地へ出てしまうので大学を支援して下さい、とお願ひしています。何で大学のために寄付をするのか。大学の色々な資料を説明して、寄付のお願いをしていく人に理解していただくまで説明をすることが必要です。群馬大学本部のあるキャンパスは、つい最近遊歩道を整備して一般にオープンにしました。子供が自転車や遊びに来たり、キャンパスに幼稚園児が入ったり、お年寄りがお孫さんと散歩に訪れるようになりました。同窓会館は、会員の利用を最優先した施設なのですが、大学が地域に密着する場、地域の方と共有できる柔軟性のある施設内容と運営を考えることが必要だと思います。医学資料を展示するスペース、新しい医学情報をビデオで地域の方に公開する機能などを設けることは地域のメリットになりますし、地域医療に役に立ちたい医学部の意気込みを訴えるキーワードに据えられます。

伊藤「群馬大の重粒子線照射施設はまさに医療への貢献と地域の活性化に繋がるでしょう。鈴木「125億円規模の国家的な事業ですから、地域医療への求心力となる筈ですね。今、県内の一人でも多くの方にこの施設について知って貰おうと努めています。」

伊藤「大学の法人化後は自力で研究費などを獲得する必要がありません。群馬大学の産学官連携は如何ですか。鈴木「地財法が平成14年11月に改正され、昨年12月の再改正で更に規制緩和されています。それまでは、自治体が寄付して良いのは産学官計画で地方自治体が大学に要請することが基本で

した。例えば、群馬大学工学部に新設した生産システム工学科の太田校舎が3月21日に竣工します。建設費は太田市が用立てました。太田市、太田商工会議所のつよい要望でこれが可能となったわけですね。地域と密着する配慮を忘れずに行う工夫ですね。薬学部は亥鼻にありますから、製薬会社と一緒に産学官計画に関連した施設を同窓会館内に設けると、寄付を考えられる会社へのアピールになるかもしれません。伊藤「同窓会館の機能や施設の内容は、同窓会員の利用を優先して決めますが、同時に、第三者が有効に利用できる施設にする柔軟性が求められているということですね。記念事業基金に協力をお願いする貴重なヒントになりました。各分野で大勢の同窓生が活躍しているのですが、在学生はあまり知らないのです。鈴木信夫先生が駅前ミーティングを始めました。それ以外にも情報を発信して千葉大学医学部同窓生として誇りを持ってもらおう。これまでも素晴らしい人を輩出していますが、直近

群馬大学学長
鈴木守先生

のほな同窓会会長
伊藤晴夫先生

でいえば日本医師会会長が千葉大医学部出身であることなどです。

伊藤・母校や同窓会を外から見ての注目があれば教えて貰えますか。

鈴木・学生に対する求心力を強めるためには、どれだけの同窓生がどんなに活躍したかを広報する必要がありますね。千葉大から医学部をリードするスターが大勢輩出しています。開校以来の歴史のステップを踏みながらシリーズで会報に紹介するのはどうですか。

伊藤・千葉大学全体の校友会のアンケートでも卒業生の大学に対する見方でポジティブな結果が得られています。

鈴木・群馬大学医学部同窓会の会報に、他の学部と同窓会をはじめとする情報を紹介するようお願いしてるところです。

伊藤・るのほな同窓会報でも他学部の紹介を始めました。

鈴木・先輩・後輩の関係で就職時の求人がありますので、工学部は結束が強いんです。しっかりした企業へ就職を斡旋することを基本にしていますので、何かを

する場合は、そういう絆を活用することが出来ます。伊藤・全学の千葉大学基金とるのほな同窓会館設立事業が同時に動き出したので、寄付依頼では難しいこともあります。

鈴木・群馬大学では重粒子線医療のための人材育成、特に医学物理士の育成をすすめる使命があります。その趣旨で募金活動を開始しました。募金にはネガティブ・プレッシャーがかかるので慎重に行うことが必要になります。これは実感です。130周年記念事業は名目

がはつきりしているから、高額寄付をして下さる篤志家が現れることを期待するのは自然ですが、先ず少しでも寄付に賛同して下さい。人の輪を広げることです。日本の場合、アメリカと違い、篤志家に対する税制優遇措置が充分でないが、これを考慮していくことも重要な仕事です。

伊藤・私学は同窓生の紹介で大学病院を受診すると、とても親切な対応をするそうです。千葉大学附属病院ではそうなっていないこと

もあるようです。こういう面では、大学自身も変わる必要があります。鈴木・そういうことがしっかり行われていないと募金

は集まらない。私学はそのあたりの活動は積極的にやっているので、大学は大いに反省して貰いたいです。

伊藤・九州大学は4年前福岡市に「医学部百年講堂」を建設しました。百年講堂には、大ホール、中ホール、会議室が設けられています。中ホールは可搬式椅子で展示会などにも利用できる多目的スペースとなっています。九州大学にはそのほかに、同窓会館や80周年記念事業として建設した大中小会議室と宿泊施設を備えた「西新プラザ」があります。

鈴木・九州の他の大学の例を見ると新制大学開設50周年の記念事業として鹿児島大学医学部に「鶴後会館」が建設されました。中規模以上の学会が開催できる立派な講堂の設備があります。鹿児島大学医学部同窓会の寄付金によって建設したものです。館内には鹿児島に展開された近代医学史の展示室もあります。長崎大学医学部も同窓会が中心

となって建設した「ボナベ会館」があります。中規模の学会が開催できるほどの施設です。アメリカ合衆国のボストン近辺の大学を

訪れてみると、多くの大学で同窓会は大学を支える資金を恒常的に獲得する活動を進めています。日本でもこれから、このような大学を中心とした文化を発展させ定着させる時代になってきたと思います。群馬大学で建設中の普及型重粒子線がん治療装置は群馬県と共同事業の形態をとって県、県下の市町村からも資金が用意されました。大規模事業を地方自治体と共に進めている事例もあることを参考にしていただけたらと思

山梨地区の医療情勢について

—その1— (全3回)

平成20年2月8日(午後6時30分)、横山宏先生のご尽力で、甲府市内の古名屋ホテルにおいて山梨るのほな会の懇談会を開催しました。

出席者：横山宏(昭25)、赤星至朗(昭34)、塚原重雄(昭36)、三井静(昭38)、清水天(昭38)、飯田龍一(昭41)、中澤肇(昭52)。
聞き手：鈴木信夫(るのほな同窓会広報担当理事)

横山・るのほな会の会員は

地域でみんな頑張っています。時間が許せる先生方にご出席頂きました。今日、お集まりの先生方は、県内のリーダー格として活躍しています。鈴木先生から、今日の趣旨を説明頂いて懇談に入りたいと

います。伊藤・本日は広い範囲のことについてお話を伺ったのですが、特に新同窓会館に関して鈴木学長の熱意をお聞きすることが出来ました。同窓会館は同窓会員のためにも、学生のためにも、医学部のためにもなり、さらには市民にとっても有意義な施設とならなくてはいけないことを改めて認識しました。本日はお忙しいところ有り難う御座いました。



横山宏先生

ングを企画し、色々な同窓の先生方との交流を始めました。一方、臨床研修医制度が導入され、同窓会の役割として「研修病院を紹介する会」を催したので、東京・千葉が中心の病院紹介になっていきます。同窓会には数千名の人材がいるわけですから、全国で活躍している諸先輩と交わり、諸先輩の活躍している病院を在学生に紹介することも広報の大事な役目です。そこで、横山先生に、山梨地区で活躍している先輩を紹介する意向をお話ししたところ、快諾くださり、今日の会合となりました。赤星・年の順でお願いいたします。横山宏先生からです。

横山・昭和25年卒、インターンは大学の附属病院でした。その後、小児科の岩沢敬(昭15)助教授が山梨医学研究所附属病院(現・山梨県立中央病院以下、中央病院)の小児科部長で赴任され、私の郷里が山梨であったこともあり、岩沢先生に師事しまし

た。この県立中央病院小児科で約38年間仕事をさせて頂き、東邦大学教授・久保先生のところ学位を取得しました。平成5年まで中央病院に勤め院長を経て定年退職しました。小児科の診療と共に小生が創設した臨床検査部は、今年50周年を迎え、2月15日に記念式典を行います。鈴木先生がご存知の故降矢震(昭22)先生には色々バックアップして頂きながら臨床病理学の研究をし、臨床検査医となり、昨暮に臨床検査管理医の称号を頂きました。小児科医としては保健活動も行い、岩沢先生のご指導を得ながら、乳幼児の健診に県内を巡回しました。中央病院を定年退職してからは、5年間日赤の血液センター所長を勤め、献血事業を推進しましたが、その後は老人医療を頼まれ転職しました。昭和47年頃までは中央病院には病理解剖医がおらず、解剖実績がないと臨床医研修病院の資格が得られないので東大で勉強し直し解剖医となり、中央病院で200体くらいの病理解剖をし、やっと総合病院となり、研修医受け入れ病院に指定されました。赤ちゃんが亡くなり解剖させていただくところまでを診てい



赤星至朗先生

た経験から、生命倫理へも興味をもって、看護大学で生命倫理講座を担当し、ZPO 法人山梨ホスピス協会の理事長もしております（会員が400名）。また現在は常勤医として医療法人恵信甲府病院の理事長を務めております。現在の恵信会の関連病院施設の病床は500数床です。今年で80歳になりますが、なかなか後継者が見つからず、土曜、日曜も殆ど病院で仕事をしています。以上がこれまでのおおよその経歴です。

赤星：今日の懇親会に甲府在住の会員へ呼びかけ、医学部の方からも3人の先生を予定していましたが、塚原先生お一人となり、総勢6人ということになりました。私は昭和9年の鹿兒島生まれです。学生時代はテニスに明け暮れての4年間でしたが、インターンが終って大学院（耳鼻咽喉科）へと進み、恩師北村武先生のご薫陶を受け、頭頸部腫瘍を専門とする事になりました。2年間の西ドイツ

ツ留学後昭和43年に山梨県立中央病院に赴任いたしました。が、がんの治療の喧伝される中、30年間に過ごす事となりました。正に過重労働の30年間であったと思います。平成1年医療局長となり、その後副院長・院長と10年間病院の管理に携わってまいりましたが、就中院長時代に新病院建設の仕事と取り組むという幸運に恵まれ、その起工式に参列した時は感慨一入でした。その間、医大の臨床実習教育病院として、また卒後研修病院として教育担当をして参りましたが、日本耳鼻咽喉学会山梨県支部会理事も長く努めておりました。評議員の他地方部長も2期努めてまいりました。自治体病院学会、その他多くの病院関係の会や医師会関係では甲府市医師会理事、山梨県医師会常任理事（勤務医部長）等々多くの経験をすることが出来ました。病院退職後は日本赤十字の血液センター所長を6年間やってまいりましたが、医療の側面を経験できたことを大変有難く感じております。現在は山梨厚生病院（600床）の耳鼻咽喉科非常勤医として水・木曜午後のみ外来診療に当たっておりますが、とても生甲斐を感じずる時でもありません。また、水曜日の午前中はボランティアとして、ホスピスで終末期の人々との話し合いの時間を過ごしております。これは15年前からの私のライフワークであり、今後も続けていく積りで、一昨年よりのはな会の常任理事の仕事をしておりますが、私も医者生活も半世紀となりまして、こちらはそろそろ引き時かなと考えているところです。

塚原：昭和10年10月10日、十が重なるという事から重雄と申します。目の記念日に生まれましたが、1万5千人いる眼科医で、昭和10年の目の記念日に生まれたのは唯一私だけでしょう。親父が眼科医でしたので、眼科医を選びました。昭和36年卒の同期に、大学関係では青木謙、中嶋伸之、今野昭義、野尻雅美君がおります。私は卒業後東大へ行き、これまでに12回転職しています。インターンは警察病院で、東大眼科医局へ入局し、関東労災病院、東京厚生年金病院、石川島播磨重工健保組合病院、電通診療所に勤務しました。それから、イギリスに1年半、アメリカ

へ1年間留学して帰国しました。東大講師を務め、信州大学助教授から諏訪日赤病院の眼科部長を経て、山梨医科大学が開校した2年後の昭和57年、教授に就任してから27年間山梨大学におります。医科大開校当初は、私と助教、そして事務官の3名でしたが、現在、在籍した者は100名を越すまでになりました。平成10年4月、山梨医大病院の病院長を命ぜられた2ヶ月後、全国国立大学附属病院長会議が山梨で開催されるので、その司会をすることになり、当時、千葉大附属病院長で脳外科の山浦晶（昭40）先生に助けて頂き何とか乗り切りました。その時の議題は現在にも通じるものでした。つまり、①国立大学病院が患者中心の診療をするにはどうしたらよいか、②病院長がリーダーシップを発揮させるにはどうするか、③国立大学附属病院の運営改善をするには、④情報公開に対応するにはどうしたらよいかなど、が挙がっていました。

前、手伝え。病院を運営した時と同じ発想で、患者を学生に置き換えて管理運営を指揮すれば良い」と声を掛けられ、副学長、理事で4年間経ちました。昨年10月に任期が来て退官する積もりでしたが、学長の任期が終わる来年3月まで現職を続けることにしました。

鈴木：統合の目的は達せられたのでしょうか。塚原：工学部と医学部との統合の最大目的は医工融合による新しい研究分野の創設にありましたが、初期の目的を達したとは、まだ、言えません。しかし幾つか新しいプロジェクトが進行しています。工学部附属ワイン科学研究センターと医学部で、ワインのポリフェノールの効果について共同研究しています。また癌の免疫療法、連携融合プロジェクトが幾つか進行しています。今年、総務省による燃料電池の共同研究が7年間約70億円かける計画が持ち上がっています。燃料電池は〇〇を出しませ

ら、手伝え。病院を運営した時と同じ発想で、患者を学生に置き換えて管理運営を指揮すれば良い」と声を掛けられ、副学長、理事で4年間経ちました。昨年10月に任期が来て退官する積もりでしたが、学長の任期が終わる来年3月まで現職を続けることにしました。

ので、これからの燃料として期待されています。地域連携という点で、有難いことに、山梨県が大変協力的で、山梨県知事公舎敷地が無償貸与となり、そこに燃料電池研究センターが建てられる予定です。様々な企業の援助で数千万円かけた80Kwの燃料電池装置が、既に山梨大学医学部病院内で稼動しています。山梨大学の特色のひとつであるワインセンターは全設備の改修が終わり、生まれ変わりました。国立大学は運営費交付金（1年1%減）や人件費（5年5%減）が毎年削減されますので大学の経営は大変です。その中で、山梨大学は管理運営の面で、84国立大学法人の中で10位以内を占め、地方大学の中では大変頑張っています。話は飛びますが、4年前に始めた「慢性疾患支援システム研究会」を来週開催しますが、それには、平井愛山（昭50）先生、厚

ので、これからの燃料として期待されています。地域連携という点で、有難いことに、山梨県が大変協力的で、山梨県知事公舎敷地が無償貸与となり、そこに燃料電池研究センターが建てられる予定です。様々な企業の援助で数千万円かけた80Kwの燃料電池装置が、既に山梨大学医学部病院内で稼動しています。山梨大学の特色のひとつであるワインセンターは全設備の改修が終わり、生まれ変わりました。国立大学は運営費交付金（1年1%減）や人件費（5年5%減）が毎年削減されますので大学の経営は大変です。その中で、山梨大学は管理運営の面で、84国立大学法人の中で10位以内を占め、地方大学の中では大変頑張っています。話は飛びますが、4年前に始めた「慢性疾患支援システム研究会」を来週開催しますが、それには、平井愛山（昭50）先生、厚



塚原重雄先生



山梨大学工学部附属
ワイン科学研究センター

労省の山本英紀課長さんが来られて講演される予定ですが、このような会にも工字部の先生方が参加されており、これらは医工融合の成果ともいえます。

(次号へつづく)

新企画として14号から始めた駅前ミーティングは、同窓会員の理解を得られたお陰で、個別又はグループ対談を17回行い、延べ26名の同窓会員と対談することが出来ました。

千葉大学他学部同窓会の紹介

法経学部同窓会

法経学部同窓会は、法経学部の卒業生のほか、大学での学部の変遷から、法律、経済、政治、社会学等を選考した者を中心とした、卒業生から構成されており、沿革としては、昭和25年度からの文理学部、昭和43年度からの人文学部、そして現在の法経学部からなっております。

従いまして、同窓生の職域や地域的な広がり、社会全般の各方面にわたっており、行政官庁、銀行関係、法曹界、政治家、マスコミ

同窓会の活動をより活性化する趣旨で始めたミーティングを通じて、地域医療、研修医制度、医療崩壊などの諸問題から同窓会への期待など、広範囲に亘る提言・提案がありました。それらは、逐一会報へ掲載して全国の会員へ紹介しました。前号から会報に掲載し、全文を同窓会ホームページで公開することになりましたので、一読して下さい。

相互連絡や母校として懐かしさを持つ場所の提供等を心がけております。総会を年一回開催し同窓生の親睦を図るほか、会報をやはり年一度発行し同窓会の活動を報告しております。また、最近のうれしい話題をご報告いたしますと、ご存知の方も多いと思いますが、法科大学院において、平成19年度の新司法試験の合格者について、合格率が全国一番の成績をおさめたことでもあります。今までは、地方大学というイメージや認識の千葉大学が、他の有名校を超えて一番となったことは、すばらしい快挙でありまして、関係の先生方ばかりでなく、一般の人にも強く《千葉大ここにあり》と存在感を大いにアピールできたことであります。



交歓会風景 (左より吉永会長、柿原教授、松田教授、渡部副会長)

こうした成果を挙げることで、同窓生が再度大学時代を想い返し、懐かしんで大学を訪ねたり、同窓会に参加する契機になれば、すばらしい事と考えているしいです。時代が変わり、同窓会活動も総会に集るといった事から、インターネットにより情報交換するようになってきております。同窓会としても、こうした要請に対して十分に心えていけるよう努力をしていきたいと考えております。いま、全学の同窓会であります校友会で、そのための、「千葉大学SNS、Cuno (キュリオ)」をたちあげており、同窓会の参加を呼びかけております。法経学部同窓会も積極的に参加することとしております。

理学部同窓会

(吉永英明記)

理学部は文理学部を1968年(昭和43年)に改組して人文学部や教養部と共に設置され、数学ならびに自然科学の諸分野に於ける基礎的教育研究を主な目的としております。

文理学部は1950年(昭和25年)に創立され、東京医科歯科大学予科を包括して、医学歯学の進予備課程の観があり、自然科学及び人文と社会科学の3課程をもち、全学部学生の一般教養課程を担当しました。この文理学部自然科学課程卒業生の約600名と理学部卒業生の約600名が理学部同窓会を構成しております。同窓会総会は隔年として11月3日(大学祭期間)に西千葉キャンパス施設で開催しております。最近では、2005年総会が大学院自然科学研究科大会議室で行われ、約200

名が出席しました。総会に先だって、理学部施設や大学祭行事の見学を各学科ごとに実施して頂きました。総会では、理学部校友会委員の渚勝教授が進行係となり、金子克美理学部長の挨拶・理学部近況報告、大日方昂教授の特別講演、渚勝教授の同窓会事務局・校友会理事報告がありまして、引き続き、懇親会場が在学生有志の協力により準備され、名誉教授や教職員も参加して、学科ごとにテーブルを囲み近況や想い出話を花を咲かせました。2007年総会は11月3日に大学院理学研究科大会議室で開催され、約150名が出席しました。総会では、渚勝教授が司会役となり、廣井美邦理学研究科長の挨拶・大学院理学研究科改組報告、化学科と大学院学生有志の弦楽器演奏、渚勝教授の同窓会事務局・校友会幹事報告、桜井貴文准教授の千葉大学SNS「Cuno」解説、大原隆会長の千葉大学基金「SEEDS」説明など、意見交換を行いました。総会の後は、各学科ごとに研究室施設を見学して、けやき会館や演習室に準備された懇親会で歓談しました。次回同窓会総会は2009年11月

園芸学部同窓会

(大原隆記)

園芸学部の前身である千葉県立園芸専門学校は明治42年4月に創立し、明治45年3月に第一期の卒業生を「得業士」として送り出した。同年卒業を前に「千葉県立園芸専門学校校友会」が設置され、会員相互の情報交換の場として「校友会報」が発行された。大正3年校名の改称により、「千葉県立高等専門学校校友会」となり、さらに大正5年1月、学校側の要望により「園芸得業士会」と名称を改め、学校と得業士との連携をより前面に押し出した同窓会が結成された。大正11年、松戸町戸定という地名を冠し、「戸定会」という名称が付けられ、現在に至っている。

来年母校創立100周年を迎え、戸定会会員総数は1400名に達する。卒業生は園芸、農業、畜産、食品、流通、肥料、医薬品、造園、環境等の多分野にわたり、学術、研究、教育、行政、普及指導、生産、開発、企画、設計、文化等の面で、国の

3日に西千葉キャンパス施設で開催予定です。



戸定会会報

内外で広く活躍している。同窓会の発足当時から、会員相互の親睦と母校の発展に寄与するという二つの目標を掲げており、毎年6月に学部で開催される理事會・総会には全国各地から代表者が出席する。各県にはそれぞれ「支部會」が設置され、毎年、または隔年で「支部総會」が開催され、会員相互の情報交換、親睦・交流を深めるとともに、会本部から役員・学部教員を派遣し、大学・学部の最新情報を各支部の会員に伝え、卒業生と学部との連携をより強固なものにしている。支部総会では近年、会本部からの財政支援により最新園芸情報や現役会員の活動状況の講演等を総会に先立って行う企画が定例化し、参加者が急増している。

また、年一回、「戸定会會報」を発行し、学部の組織、研究状況、学生活動等の他、各県支部総会の活動状況に掲載し、全会員（約1万人）に送付している。会員名簿は、隔年を原則に発行して、会員相互の連携の便宜を図っている。学部支援に関しては、学部の広報活動や学生活動への支援の他、学部の教員・学生・留学生の研究・教育を支援する目的で設置された「戸定学術振興會」を介して、積極的に援助している。

母校への支援で、いま同窓會が最も力を入れているのは、創立100周年記念事業で、母校がこれまで築き上げてきた輝かしい伝統を高らかに謳い、次なる世代へのさらなる飛躍を宣言するために、同窓會としても園芸学部と緊密な連携をとりながら、100周年を迎える準備を進めている。

（伊東正記）

◆他大学同窓會の紹介◆

信州大学農学部施設

『食と緑の科学資料館（愛称：ゆりの木）』

— その1 —

平成20年2月8日（午後1時～2時50分）、堀内照夫・農学部同窓會會長、信州大学農学部長・唐澤豊教授、応用生命科学科・廣田滿教授より信州大学農学部同窓會の現状と同窓會事務局が設置されている『食と緑の科学資料館』が建設されるまでの経緯を伺いました。

鈴木・千葉大学ゐのほな同窓會では、135周年記念事業の一環として同窓會館を新設する計画を立て募金活動を始めました。どういいう同窓會館にするかは定かではない面もあり、色々な所の同窓會館を取材して会員へ知らせる必要性を感じて、昨年から会報で紹介しています。ここには資料館があります。

り、大学の活動にも上手に利用され、地域の方が見学に来た際には役に立つ情報を提供しているとの話を伺っております。ゐのほな同窓會館も過去の検討の過程で、同じような機能を併設した會館をイメージしていたこともあり、「食と緑の科学資料館（愛称：ゆりの木）」（以下、ゆりの木）を会員へ知らせるために取材をすることになりました。これまで、大学の医学部同窓會の情報、東京医科歯科大学、獨協医科大学同窓會と実施してきましたが、医学部以外の同窓會の情報収集は初めてで、意義ある成果が得られると期待しています。

堀内・60周年記念事業として、私共の同窓會は「ゆりの木」建設のお手

伝いをしました。農学部卒業生は400名位おりますが、若い卒業生は同窓會に対する意識が低いです。同窓會の役割は、卒業生の親睦を図ること、農学部の応援団という認識です。40年前、卒業生が100名足らずの頃でしたが、寄付を募り伊那市内に同窓會館を建てました。

鈴木・最初の同窓會館は大学のキャンパス内になかったのですね。

堀内・この「ゆりの木」が竣工してから、同窓會事務局を移転しました。同窓會は、同窓會の名前をつけた財団法人を設立できませんでした。平成3（1991）年に、財団法人・信州農林科学振興會（以下、振興會）を別途設立しました。所管の長野県教育委員会で認可を受けます。ですから、同窓會はその振興會の管理運営をすることから、振興會とは表裏一体と考えられます。

私共の45周年記念事業基金は、約8千万円の寄付が集まり、預金金利を加えて8,500万円になりました。その中から、若手の先生方に研究費を補助、地域の方を対象にした講演會開催の支援などを行ってきました。最近外国人留學生が増えている

鈴木・法人を設立されておられますが、申請の手続きなどをお聞きしたいのですか。

堀内・当時は3千万円位の基金があれば法人申請は可能で認可されました。法人への寄付は免税になりますので、寄付者の負担が軽減されます。

鈴木・任意団体のゐのほな同窓會にはそれが無いので、135周年記念事業への寄付は法人である大学と同窓會の二本立てにしています。

先程の大学の先生に講演會を通して支援すること以外に大学の先生方へ直接の支援をされていますか。

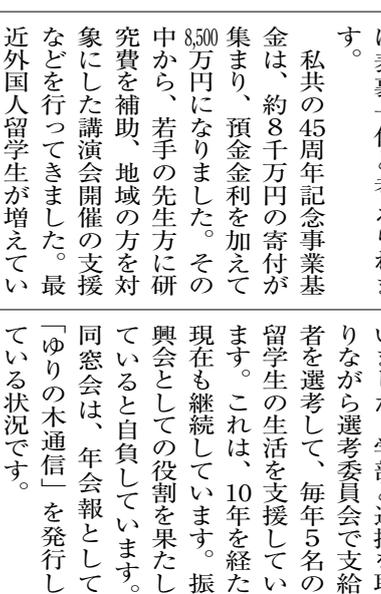
堀内・研究所への支援があります。2名から3名を対象にした総額百万円位の支援をしています。

鈴木・会費の納入方法など私達のゐのほな同窓會とは違った点があるかもしれませんが、400名の会員の会費納入状況は如何ですか。また、同窓會への関心はどうでしょうか。

堀内・定年退職が近くならないと関心を持ってくれま



ロビー（ゆりの木）



鈴木先生 堀内先生 唐澤先生 廣田先生

せん。子供の養育が終わらないと難しいようです。会費の徴集は、入学時に入金1万円、終身会費1万円を徴収しています。平成9年の入学時から始めています。

鈴木・ゐのほな同窓会では4年前に学生会員を設け、入学時に6年分を一括徴集しています。

唐澤・同窓会が法人化する以前は同窓会が旗振りをして基金集めも行っていました。60周年記念事業は法人化した後に始まりましたので、事業主体をどこにするかが検討課題となりました。振興会と協議して大学が主体になることに決まりました。大学が寄付を受け入れることを了承しましたので、事業計画の骨格を含めて大学が振興会の意向を汲みつつ進めました。法律の縛りがありますので、やり難い面もありましたが、大学と同窓会とは車の両輪の関係で実行委員会を発足させて計画を進めました。建設資金的な面が絡みましたが、平成15年に開始して足掛け5年かかって完成しました。1億円の寄付目標を設定しました。しかし、大学は関係のある企業や団体を対象に、同窓会は同窓



展示室

生を中心にした寄付集めをしましたが、なかなか目標達成とならず苦労しました。スタートから竣工までの期間が足掛け5年を要した理由ですね。建設資金の裏づけがなければ、振興会としては基本設計から実施設計に入れません。用途が立つてから動き出すということにならざるを得ませんでした。

唐澤・地方の大学ですから、地域密着の考え方、地方に根ざして運営をするという基本的な方向があります。それを実現するために、本学が地域社会の砦となり、その柱として何ができるかを考えました。一つは、今回作った「ゆりの木」です。農学部の中に動



齋藤 康字長



河野陽一 病院長

医学部附属病院新病棟 開院記念式典開催

医学部附属病院の病棟改善整備計画の中心事業として、かねてより建設を進めておりました新病棟が5月より開院する運びとなり、平成20年4月17日、京成ホテルミラマールにて記念式典と祝賀会が執り行われました。

物・植物などの貴重な標本があったのですが、あちらこちらに分散・保存されており、その内にゴミになって破棄される恐れがあったのです。これは、貴重な標本ですから、一箇所にまとめて、学生の教育に活用したり、会合などで集まった際、地域に開放して関心のある方々に見てもらったり、使ってもらったりして、より有効に活用することを考えました。その材料を提供する場として「ゆりの木」を位置づけし、掛替えない貴重な標本を保存・展示する機能を併設しました。「ゆりの木」は箱物です。この箱物は地域連携を築く、或いは生涯学習、社会教育に使っていただく拠点施設としての意味があります。お陰さまで、子供から父兄などに大勢来て頂き、昨年5月26日開館以来、半年間で学外の方が2500人位来ています。色々な方たちで研修室の利用もあり、当初、考えていた意図の通りになっていくと判断しています。資料館の内容と活動を充実して一層力を入れていきたいと思っています。(続きをその2としてホームページに公開しています)。

HOTEL NEW OTANI MAKUHARI

上質で満たされた寛ぎのひとときを。
ようこそ“心のリゾート”へ。



- 客室数/418室 ■レストラン・バー/10店舗 ■宴会場/13ヶ所 ■チャペル/2ヶ所 ■神前式場/1ヶ所 ■幕張メッセへ直結
- ペットホテル「いちごハウス」 ■会員制高級スポーツクラブ「Club&Club」 ■全室、全館 VDSL 高速インターネット対応

ホテルニューオータニ幕張は東京ディズニーリゾート・グッドネイバーホテルです。

〒261-0021 千葉県千葉市美浜区ひび野2-2 Tel: (043)297-7777

www.newotani.co.jp/makuhari/



ホテルニューオータニ幕張

母校情報

文部科学省

がんプロフェッショナル養成プラン

「関東広域多職種がん専門家チーム 養成拠点」について

大学院医学研究院 副研究院長
臨床分子生物学 教授
丹沢 秀樹 (昭57)

医学部附属病院臨床腫瘍部 副部長
呼吸器内科 講師
滝口 裕一 (昭58)

このたび、文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」に、千葉大学(主幹校)、筑波大学、埼玉医科大学の共同事業プランが採択されました。事業期間は5年間で、事業総額は7億5千万円を予定しています。3大学を代表いたします。この大切な機会を与えていただきました文部科学省に御礼を申し上げます。

日本のがん診療レベルは現在、既に非常に高いレベルを達成しています。これは各診療科の努力の賜物と考えられます。近年、がん診療はより高度化し、効率的な専門分化を図るばかりでなく、包括的、全人的治療を実現しなければなりません。勿論、従来、各診療科間の協力により治療が行われていたのですが、さらに、システムとして効率的な診療体系を構築すること

が緊急の課題とされています。具体的には、転移ばかりでなく、合併症なども含めて、がんは全身疾患です。このため、目指すがん治療システムは、がんに伴う専門的知識と技能を十分に有する医師およびコメディカルが叡知をしほり共同して治療するシステムです。この目的のために本事業では、がん専門医師(外科医・内科医・放射線科医・緩和ケア医)、がん専門看護師、がん専門薬剤師、医学物理士などの7つの養成コースが大学院の中に設定され、学位と専門医などの資格を効率よく取得できるように計画されています。さらに、生涯教育として、7つのインテンシブ・コースを用意し、医師ばかりでなく、既に現場で活躍中であるこれらの他職種の方々に、がん専門家として必要な教育を行う短期

コースを用意いたしました。特に、本プログラムの特徴は連携3大学からのeラーニング講義を大学、診療科、及び職種の壁を取り払い、プログラムジュークボックスに登録し、施設毎、職種毎に適した形に再構築し効率的な医療人育成を行う点にあります。この結果、本プログラムに登録をしていた方は、場所と時を選ばず、しかも、他の職種や専門医制度の授業科目を自由に学ぶことが出来ます。さらに、患者支援団体などにもご利用可能なシステムに発展させるつもりです。

千葉大学は、医学部、薬学部、看護学部が伝統を誇り、大学院に関しては修士課程のみならず、博士課程も全て揃っている日本でも数少ない総合大学です。また、平成15年度文部科学省21世紀COEプログラムとして、大学院医学研究院の「消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点」、看護大学の創出・国際発信拠点」という2種類のプログラムが選定され、癌の最先端治療および研究と、最先端看護の開発が行われてきました。この過程において

と、育成された多くの人材が今回のプログラムの基本的な支えとなっております。すなわち、大学院医学研究院に、薬学部、看護学部などの相互乗り入れによる新しい「先端腫瘍治療医学部門」を設置し、その下に6つの研究領域(低侵襲治療学、治療抵抗性克服治療学、先端化学療法学、先端量子治療学、分子標的治療学、予防・早期診断学)を有する「臨床腫瘍学講座」を置きました。すでに、この講座を基にして、「臨床腫瘍学」という講義を開講しており、今後、整備充実させて、「がんプロフェッショナル養成プラン」を支援して参ります。これらの講座に対応して、医学部附属病院内に「臨床腫瘍部」を設置し、「包括的がんセンター」としての役割を果たしています。

4th Basic & Clinical Research Conference

大学院医学研究院分化制御学

坂本 美 (昭62)

大学院医学研究院整形外科学

大鳥 精司 (平6)

本事業に対する、皆様のご支援・ご助力をお願い申し上げます。この講座は「臨床腫瘍学」を置き、がんの最先端治療学、先端化学療法学、先端量子治療学、分子標的治療学、予防・早期診断学を有する「臨床腫瘍学講座」を置きました。すでに、この講座を基にして、「臨床腫瘍学」という講義を開講しており、今後、整備充実させて、「がんプロフェッショナル養成プラン」を支援して参ります。これらの講座に対応して、医学部附属病院内に「臨床腫瘍部」を設置し、「包括的がんセンター」としての役割を果たしています。

す御出席を頂きました。発表演題は臨床講座9講座、基礎講座6講座が公募後に決定され、担当いたしました。幅広い学年の学生に専門領域の研究内容を10分でお話するのは大変難しいことと思いますが、どの講座の先生も、疑問を抱くにいたった経緯、考え方のプロセス、疑問の解決法、臨床応用へ発展させるための具体的道筋等をおりませながら話を展開されておられ、学生に分かりやすくとの工夫が随所に見られました。また、学生も難解な用語もあつた中、非常に熱心に耳を傾けており、その表情には意欲を感じました。座長の先生には内容も多岐に渡り難しいセッションだったことと思いますが、大変ご尽力頂きました。今回、助教を中心に準備を進めてきた初めての会ではありましたが、大変光栄なことに多くの先生方からの力強いサポートを受けることが出来ました。会の主旨に御賛同くださり、整形外科学 高橋和久教授が全面的に御協力くださいましたし、徳久剛史 医学研究院長も設立当初から御指導下さいました。さらに教授会にも御案内をいただき、立派すぎる程の体裁を持つ研究会へと発展してい



講座会場

医学部学生・研修医・研究者の先生へ
第1期 Basic & Clinical Research Conference
開催のお知らせ
千葉大学医学部の基礎-臨床の最先端研究を推進するための21世紀COEプログラムとして、分化制御学、整形外科学の最先端研究を推進するための21世紀COEプログラムとして、第1回 Basic & Clinical Research Conference が開催されました。この会の目的は千葉大学医学部の基礎・臨床各講座で現在実際に取り組まれている世界最先端の研究の現場を医学部学生および研修医に伝えること、またこの機会を機に学生、医師、教員の間の交流を図ること、その主旨において他に類のないユニークな研究会と想われます。また、この会は助教会員の発案で構想が興され、助教会、千葉大学関連施設医師有志で立ち上げた、今までにない設立経緯の研究会です。当日は医師国家試験の前にも関わらず1年から6年までの140名の医学部学生の御参加を頂き、10名の前期研修医の先生、さらに60名余りの大学内外の教員、医師の、あわせて210名を超

くことが出来ました。徳久剛史 医学研究院長におかれましては当日スライドを用いての飛び入りの御発表を頂き、千葉大学医学部の歴史、現在の千葉大学医学部の役割、研究スピリットの必要性とその教育ビジョンを語ってくださいました。さらに「自分の第一印象を大切にして進路を考えてほしい」と熱のこもったお話を頂きました。

研究会に引き続き行われた懇親会にも多くの学生が参加して、学生、教員間の話が盛り上がり、情報を欲している学生の意欲を感じている一日となりました。今後さらに「科学的探求」の面白さと各講座の実際の研究現場を伝えられる会として発展させていきたいと考えております。

最後になりましたが、御協力、御支援を頂いたすべての皆様、共催頂いた第一三共株式会社の皆様、に感謝いたしますとともに、ますますの御発展を祈念いたします。

(坂本明美)

開会の辞..

医学研究院長 徳久剛史

医学教育研究室教授

田邊政裕

座長..

千葉労災病院整形外科医

長 青木保親 / 井上記念
病院内科医長 佐藤宏 /
千葉中央メディカルセン
ター糖尿病センター医長
石塚俊治
演者(敬称略)..
小児病態学 下条直樹 /
神経内科学 金井数明 /
精神神経科学 椎名明大
細胞分子医学 宮城聡
整形外科学 中川晃一
血液内科学 中世古知
昭 / 生殖機能病態学 生

水真紀夫 / 分化制御学
坂本明美 / 神経情報統合
生理学 松澤大輔 / 免疫
発生学 細川裕之 / 人工
腎臓部 松下一之 / 発生
生物学 室山優子 / 神経
生物学 山口淳 / 循環器
内科学 高野博之 / 肝胆
脾外科学 竹内男
閉会の辞..
附属病院長 河野陽一 /
整形外科学教授 高橋和
久

イリノイ大学との
交換留学制度

スタート!!

医学教育研修室・副室長、
学生国際交流コーディネーター

田川 まさみ (昭56)

現在、多くの医学部、医科大学では海外の大学との学生交流を行っており、海外における臨床実習の機会を選択実習のひとつとして制度化してカリキュラムに取り入れていきます。学生の国際的視野を広げ、参加型臨床実習の良い機会として海外での実習は重要ですが、千葉大学医学部には、これまで制度化された留学プログラムがありませんでした。

イリノイ大学シカゴ校と千葉大学は1996年より大学間交流協定、学生交流協定を締結することが同

意され、2007年2月28日イリノイ大学シカゴ校医学部での調印、3月13日に千葉大学医学部の調印が終了し、正式な制度として発足いたしました。

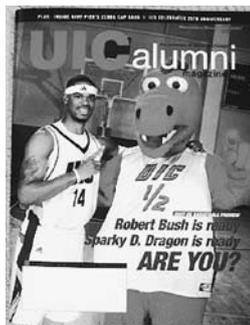
協定の主な内容は
・最終学年の選択科目の単位互換を行う
・追加の授業料徴収は行わない
・学生数の定員を設けない
・実施のためのコーディネート



ニュース記事



トップ記事



表紙

ネーターをおく
・毎年制度の見直しを検討する
となっております。

イリノイ大学医学部は全米1の学生数を有し、シカゴ校はシカゴの市街地に大学、附属病院があります。医学部には大規模な臨床実技試験が可能なClinical Performance Centerがあり、70名ほどの模擬患者が登録され、臨床のスキルやコミュニケーションの指導と評価にあたっています。

昨年10月に留学する本学学生の選考を行い、10名の応募者の中から3名の学生(坂本憲一、高橋幸子、岡田厚)が選ばれました。その後イリノイ大学4年の選択コースの中から4週間のUICコース、循環器コースを受講コースとして選び、本年4月から6年学外臨床実習の一貫として、渡航しております。

なお、6月に交換留学した学生の報告会を予定し、実習の経験を医学部で共有し、学部教育の改善につなげていきたいと考えております。また、イリノイ大学からの留学生を受入れる準備も進めております。

とでしたが、イリノイ大学シカゴ校医学部との学生交流制度がスタートした直後の時期ですので、その概要を紹介しました。

私はイリノイ大学シカゴ校医学部大学院にて医学教育学修士を取得し、同校同窓会の会員です。同窓会では「UIC Alumni magazine」(写真:A4版)を隔月発行しています。写真の2007年11、12月号は52頁構成

千葉大学ユニオンの紹介

前耳鼻喉支部担当執行委員、
形態形成学 准教授

豊田 二美枝

ののはな同窓会会員の多くの皆様にとって「千葉大学ユニオン」という組織は初耳かと存じますので、紹介させていただきます。千葉大学は2004年の法人化に伴い、教職員は非公務員となりました。それまで国家公務員として受けていた身分保証がなくなり、雇用や労働条件に関わる事項は労働基準法、労働組合法等のもとで、労使の交渉・協議によって決定されること

になつたのです。つまり私達の雇用とよりよき労働条件を確保するためには、強い労働組合の存在が不可欠となりました。そこで、既存の千葉大学教職員組合を母体として、同年10月に全学的な労働組合・千葉大学ユニオンが発足しました。御覧のロゴ・マークは第一代委員長・宮崎紀郎工学部教授(当時)の作品で、オリーブがCUU(Chiba University Union)を繋いで右上がりに伸びていることで、みんなが「協力し」「発展する」ユニオンにしようとする願いが込められ



ロゴマーク

ています。

ユニオンは部局やキャンパスを中心とする支部を単位の構成され、総会（最高決定機関）、代表委員会（総会に次ぐ議決機関）と正副委員長を筆頭とする執行委員会があります。執行委員会は労働法の専門家を含め、各支部から推薦され、承認を得た人々によって業務を担っています。活動内容は、(1)賃金、労働時間、その他の労働条件の改善に関すること(2)文化、教養の向上と福利厚生に関すること(3)大学における教育、研究の創造的發展と大学運営の民主化に関すること、以上の三点を中心としています。また「新入教職員歓迎会」「職員総作品展」「駅伝大会」等、学内の各種交流イベントを共催し、自然災害の募金活動も行っています。月一回、全教職員に配布する「千葉大学ユニオンニュース」には、学内問題とユニオンの対応、労働問題の解説・職場だより・催しのお知らせ等が掲載されています。

として受け入れ難いことに反対を表明し、その都度団体交渉を重ねてきました。この間、「サービス残業未払」「非常勤職員への夏休み」「教員による自己目標設定カード」などで、ささやかながら一歩一歩要求を実現し、また経営側の行き過ぎた方針への歯止めを掛けてきました。亥鼻での「任期制問題」は中でも重要な課題でした。全学に先駆けて大学院医学研究院（旧医学部）と附属病院の全教員を対象に平成19年度からの実施が提示されたからです。ユニオンは「明白な不利益変更である」として反対を表明し、協議や団交の結果、「現職教員の同意書提出は任意である」との回答を得ました。

附属病院では医師・看護師をはじめ大勢の医療従事者が厳しい職場環境で働いています。少しでも勤務条件を改善し、働きがいのある職場をつくるためには、働く者の立場から発言し行動するユニオンがもっと大きくなることが必要です。以上、ユニオンは皆様の母校・職場の改善に取組む組織です。ご理解・ご支援のほどよろしく御願ひ申し上げます。

千葉大学医学部

附属病院ニユース

平成19年11月～20年3月

病院長 河野陽一



上げます。
・連絡先：〒263-8522
千葉市稲毛区弥生町
総合校舎G号館401室
ユニオン事務室
・電話：043-290-2234
・ホームページ：
<http://www.age.cu/>

○新型インフルエンザ対策本部等の設置（平成20年1月）

新型インフルエンザが発症した場合の初動対応を円滑に行うため、院内にインフルエンザ対策本部及び新型インフルエンザ対策ワーキングを設置した。現在、同ワーキングを中心に対応マニュアル等の整備を進めている。

○地域がん診療連携拠点病院（平成20年2月）

2月8日付けで千葉県より地域がん診療連携拠点病院の指定を受けた。本院は、二次医療圏の地域がん

○各病棟の名称（平成20年2月）

新病棟の設置に伴い、各病棟の名称を、新病棟「ひがし棟」、既設病棟「にし棟」、母子センター棟「みなみ棟」に決定した。

○遺伝子診療部の設置（平成20年2月）

遺伝性疾患等に対するカウンセリングや遺伝性疾患等に係る診断・治療等を目的とした遺伝子診療部を設置した。

医療機関紹介

◆社会保険山梨病院

『だれでも、いつでも、気持ちよく安心してかかれる病院』

院長 飯田 龍一（昭41）

社会保険山梨病院は、右記理念の下に運営している総合病院で、昭和22年5月に開設、210病床を有し、正規職員は280名、健康管理センターを併設しています。地域医療における当院の役割は下記の4点として医療活動を行っています。
1. 二次救急医療機関として、医療の原点である地域救急医療に貢献する。
2. 主に急性期疾患を総合的に治療する病院として、高度医療機器と機動的に機能するスタッフを整え、地域住民に必要な医療を提供する。
3. プライマリ担当医療機関と連携して、患者がその症状に応じた適切な医療を受けられる体制をとり機能分担を図る。また、連携する医療機関に高度医療機器を積極的に利用してもらい診療に役立ててもらおう。
4. 生活習慣病やがんの予防のための健診活動を山



▲医局の扁額



玄関▶



▲内視鏡検査室

塵肺、VDTIなど）、その他各種の健康診断を行っています。

それぞれの健診では、一般的な項目に加え、脳ドック（MRI/MRA）、心臓ドック（心エコー検査/トレッドミル検査）、肺CT検査、乳がん検査（マンモグラフィ検査/乳腺エコー検査）、骨粗鬆症検査、腫瘍マーカー、ピロリ菌検査、などのオプションに対応できる設備があり、全身をくまなく検査することができます。一方、近年増加している糖尿病や骨粗鬆症に対しては当院専門医による患者のための勉強会を開講しています。

平成17年度より健診システムや検査機器の入れ替えを行い、より精度の高い健診が行えるようになりました。

同窓会員著書の紹介

伊藤晴夫 著

「活き活き生活のヒント — 少子高齢化時代の医療と健康 —」

千葉日報社
一、六〇〇円

伊藤 晴 夫 (昭39)



千葉大学医学部附属病院の病院長を務めていた時から2年余にわたり千葉県紙である千葉日報の「エコ」という欄に、そのときどきに思いついたよな「ごと」を書いてきた。隔週だったので約50編となった。医学に関する学術論文と違い、一般の方々に向けて面白い内容と心がけていたが、アイデアが浮かばず、締め切りが迫り苦しんだこともあった。それだけに愛着の残るものではあったが、良い経験をさせて貰った位に考えていた。

この度、図らずも千葉日報社相談役の土屋秀雄氏より「エコ」欄の原稿を一冊の本にしてはどうか、というお勧めを頂いた。一貫したテーマを追求したも

のではないので躊躇したが、一般の方々が健康や医療について考える、なにがしかの参考になる部分もあるのではないかと思ひ、纏めてみた。この歳になるまで、自分の「風土」性というものを考えてみたこともなかったが、いろいろな発想点に千葉での生活が土台になっているような気がする。それは、群馬県の田舎から千葉市に住むようになって40年以上になるので当然かもしれない。

2年間の東京大学教養学部学生、2年間のシカゴ大学留学、1年間の東京厚生年金病院泌尿器科勤務以外は千葉で生活した。母校でもあり、医学部泌尿器科教授として、また附属病院の院長として勤務した千葉大学時代、10年間教授として勤務した帝京大学医学部附属市原病院(現、帝京大学ちば総合医療センター)時代であるが、この間の千葉の発展(?)には驚かさ

れる。例えば、私の住む千葉市美浜区も、かつては遠浅の海であったが、埋め立てて広大な陸地となり、その後経済成長とともに変貌を遂げた。幕張地区に林立するビル街をみると以前の鄙びた潮干狩りの名所をしのぶすがもない。

「エコ」欄に掲載したものを整理してみると、幾つかの視点より書いたことが分かった。医療・健康が中心となっているが、そこから派生する形で、環境、スポーツなどに分類できる。「エコ」欄では800字以内であったので、今回それらに若干加筆し、トピックス毎に分けてみた。「エコ」欄執筆と並行して書いたものや、対談・インタビューなども加えてみた。身近な話題から考えた雑文であるので気軽に読んで頂ければ幸いである。

内容がある程度分かるように目次を下記に記す。

- はじめに
- プロムナード1 対談・早川恒雄氏(千葉銀行相談役)
- 第一章 千葉から考える医療と健康
- プロムナード2 対談・堀地速雄氏(回転寿司チェーン銚子丸社長)
- 第二章 スポーツからみえる世相
- プロムナード3 不妊治療をめぐるインタビュー
- 第三章 少子高齢化と現代社会
- プロムナード4 鼎談・唐澤祥人氏(日本医師会長)、鈴木信夫氏(千葉大学医学部副学長)
- 同窓会報編集長
- 第四章 地球環境問題と人間エピソード 対談・松井孝典氏(東京大学理学部比較惑星学教授)「人間圏」と医療

寺澤捷年 著

「完訳・方伎雑誌」

たにぐち書店

寺澤捷年(昭45)

尾台榕堂(1799-1871)は新潟県十日町市の出身で、江戸に出て尾台浅嶽に師事した幕末の名医である。現在の東京駅八重洲口付近で開業しており、将軍・家茂



の侍医も務めた人物であるが、その50年余にわたる臨床経験や医療哲学を集大成した最後の著作が『方伎雑誌』である。

榕堂の没後数年でわが国の医学教育はドイツ医学を模範とすることになり漢方は公的な医学教育の場から排除された。幸いなことに2003年から導入された「医学教育コア・カリキュラム」に「和漢薬を概説できる」ことが取り入れられ、現在、全ての医学部・医科大学で漢方のアウトラインを学ぶことが義務づけられた。この際、重要なことは西洋医学とはパラダイム(思考の枠組み)の全く異なる漢方の理念、哲学を学ぶことではないかと私は考えている。

その意味で、本書のもつ歴史的意義は大きい。この著作は漢字カナ混じり文で記されているが、榕堂の学識は誠に深く、現代に生きる我々には正確にその内容を理解することは困難であ

る。症例の記述はおおよそ理解できるが、医療哲学、あるいは医療倫理の記述は『論語』を初めとする四書五経、『漢書』『史記』など多岐に亘る文献から引用されている。そこで、私はその出典や正確な意味を検索し、全てを現代語に訳し、さらに詳細な解説を付した。「註訳」と「解説」の2冊組である。本書によつて、江戸期の医療がわれわれの想像を遙かに超えて高い水準にあったことが理解できるが、さらにその基礎である深い倫理性と哲学性をも知ることが出来るのである。本書を出版した私自身も「和漢診療学」の開拓に大きな勇気を与えられ、臨床能力も一段と高まったことを実感している。

助言でしょうか。やはり、未科学の分野への果敢な挑戦力が必須ではないでしょうか。そのようなあるべき医師像の1例を示す著者として本書が紹介されます。医食同源を訴える栄養学読本ですが、不治の病に陥っている人々への優しい指南書でもあります。外科医の著者が到達しつつある人間救命学の極意をご堪能下さい。農学者ら委せきつて現代の栄養学を医師の手中に収める第一歩としても役立つ労作です。

「日本人だけなぜ、がんで命を落とす人が増え続けるのか」

主婦と生活社
一、五〇〇円
鈴木 信 夫 (昭47)



クコロレラ製品を服用してよろしいでしょうか。ある患者の質問です。アルバイト診療をしていた30年以上も前のお話です。健康食品ブームはいつでもあります。その種の質問を受けた時には、医師はどのように対応すべきでしょうか？ 正確な科学情報の入手と分忻力、および患者様の立場や心情を配慮しての的確な

関根 博(昭26) 著

「老医が診た男と女」

新風舎 清水栄司(平2)



著者は、これまで、「医
院経営の工夫」「開業事始
め」「これからの医院建築」
「開業医だからできること」
「開業医の力」などなど、
開業医として医院近代化の

ためにご尽力された内容を
したためた多数の著書をお
持ちだが、本作品は、こ
れまでどうってかわって、
「アテランス」「番台」「生
足」「入れ歯」「固結び」「共
用」「新婚皮膚炎」「開眼」
というタイトルの8つの短
編集になっており、帯に
は、「現役の開業医が綴つ
た小説仕立てのちよつと良
い話」とある。拜読すれ

ば、実話だが、すべての話
に共通して、文章も内容も
「粋」なものばかりで、著
者による挿画も、男と女の
話を盛り上げる。いずれの
短編も、読んでみると、く
すつと笑みが浮かび、読後
に、胸に暖かいものがじん
わりとわきあがってくる。
自分も経験豊かな著者と同
じ体験をさせてもらったよ
うで、非常に心が豊かな気
分になる。ぜひ同窓会の会
員の皆様にもご一読願いた
い。

ゐのはな同窓会の皆様へ

謹啓

陽光の候、ますます(健康のこと)お慶び申し上げます。

先日、私ども104名は無事に千葉大学医学部を卒業することができました。ここにこ報
告申し上げますとともに、改めて在学中に賜りましたご厚情へ感謝申し上げます。

つきましては、その感謝の念を卒業記念品として形に残すことにいたしました。千葉
大学ゐのはな同窓会にご協力いただき、ネッター解剖学等の教科書とシュレッダーを医
学部へ寄贈いたしました。

今後、私ども平成19年度卒業生一同は、医師として、また研
究者として、医道を各々歩んでいくこととなります。在学中の
不勉強を取り戻すべく、一生懸命に努力する覚悟しておりますか
ら、何卒、ご指導ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。
末筆ながら、ご多幸をお祈り申し上げます。

平成20年3月27日

謹白

平成19年度千葉大学
医学部卒業生一同



卒業記念品

新ゐのはな同窓会館設立事業会

募金活動の中間報告

ゐのはな同窓の皆様方
におかれましては、日頃より
本事業に絶大なご支援を
賜り心より御礼申し上げます。
下記の寺澤財務委員長
のご報告にもありますよう
に、万事多難の時期に、短
時間の間に多額のご寄付を
戴きましたことに重ねて御
礼申し上げます。この間、
多くの方々より激励ととも
に、目標達成に向けて計画
の一層の具体化と広報、顕
彰制度等の導入の検討が必
要とのご教示を頂いており
ます。事業の内容に関しま
しては、学生の集会、合宿
などのための福利施設およ
び同窓会の事務室を備えた
会館設立を第一の目標とし
て、その後募金状況に応
じ、講堂等を備えた建物の
建設を目指したいと思いま
す。近々、会館の設計概要
をお示ししたいと思いま
す。顕彰につきましては、
個人の皆様方のご寄付に関
しましては、全員のお名前
を記した銘盤を作成させて
頂きますとともに、企業等
からの多額のご寄付に関し
ましては、ホール等に名称
を冠することも検討し、い
ずれの場合も長くご芳志を

伊藤晴夫(昭39)

十十十十十

本事業会の募金活動を昨
年10月に開始したところで
ありますが、ゐのはな同窓
の皆様はじめ多くの方々の
絶大なご協力を得て、別
表のような浄財を頂いてお
ります。約6ヶ月間で、こ
のような多大なご寄付を頂
いたことに改めて厚く御礼
申し上げます。今後、日葉
連(日本製薬企業連合会)
から250万円のご寄付を頂
ける事も内定しております。
しかしながら、所期の目標
達成に向けては一層の努力
が必要なお事も事実であり
ます。過日の支部長会にお
きまして、例えば、一体
感の強いクラブ、サークル
等の諸先輩方に各種ご協力
をお願いしてはいかかかと
のご提案を頂きました。こ

新ゐのはな同窓会館設立事業会募金状況報告書

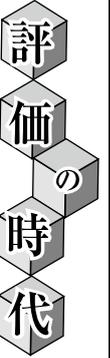
2008/3/31現在

寄付者	千葉大学基金		ゐのはな同窓会寄附金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	11	5,600,000	3	1,520,000	14	7,120,000
教職員	45	7,067,000	39	1,393,000	84	8,460,000
同窓会会員	438	32,812,000	315	15,387,000	753	48,199,000
後援会会員	44	2,098,000	41	1,220,000	85	3,318,000
合計	538	47,577,000	398	19,520,000	936	67,097,000

の件に関しましては、顧問
教員が顔ぶれの医学部教授
会においても賛同を頂きま
した。新入生歓迎会の時期
でもあり、顧問からのご協
力依頼や、また、夏休みに
向けて、学生諸君が諸先輩

方にお願ひに上がることも
あるかと存じますが、その
折にはご指導、ご協力のほ
ど何卒宜しくお願い申し上
げます。

財務委員長
寺澤捷年(昭45)



その3

前号でお知らせしましたように現在の状況を各方面でどのように改善したらよいかを検討している報告を紹介しています。すでに、数年前より提案されている内容ですが、現況にもあてはまることのようにですのでご参照ください。

提言

一 卒前・卒後の一貫性のある

医師養成政策に関する提言と要望

全国医学部長・病院長会議 (AJMC)

全国医学部長・病院長会議は、一昨年、新臨床研修制度の問題点を指摘し、左記3点を骨子とした「提言と要望」を取りまとめた。

① 医学生生の臨床実習の充実のための医行為実施の教育環境整備

② 卒前臨床研修、後期専門研修システムの構築を含む、一貫性のある臨床研修制度の見直しと研修医の適正配置、教育・研修環境の充実

③ 卒前卒後を通じた医学生涯教育の一貫性を担保する国と大学との協力システムの構築

昨年は、「臨床研修制度の迅速な見直し」を骨子とした「緊急声明」を取りまとめ、それぞれ関係省庁に

- 4. 新臨床研修制度の理念の見直し(基本的臨床診療能力の涵養と専門的研修の導入期と位置付けの再編)。
- 5. 研修指定病院基準・マッチング制度の見直しと地域別定数制及び厳格な評価の導入。
- 6. 医学・医療研究の充実・発展と、大学院制度の生涯教育への組み込み。

以上6項目を骨子に、一貫性のある医学・医師養成策を早急に具体化して行く様、関係省庁に強く要望するものである。

医師の地域偏在、診療科間偏在、基礎医学希望者の減少など様々な社会問題が臨床研修制度の導入を契機として顕在化してきた。本会議は、この問題を国民の福祉の後退につながる緊急かつ重大な問題と捉えては、「提言と要望」を取りまとめ、平成18年度総会においては、「臨床研修制度の迅速な見直し」を求める緊急声明を行った。

(AJMC: 広報 No. 50 2007年9月)

医学部・医科大学の使命は、①医師に求められる深

い倫理と人間性を涵養し、②医学知識と医療技術を獲得、修得させ、③日々進歩する医学・医療の中で得られた知識・技能を生涯にわたり維持、向上させていくためのためめ自己研鑽と自己学習する能力を獲得させ、さらに、④医学・医療を日々進歩させてゆく能力を有する人材を養成することにある。

この視点から、卒前・卒後の医学教育・医師養成の現状を見直し、卒業臨床研修の今後のありかたを卒前卒後教育改革として提言する。

I. 現状の医学教育の問題点と解決策

新臨床研修制度による研修は2年間という極めて限られた期間にすぎない。優れた臨床医の養成には、卒前教育・臨床実習・卒後研修、更にその後の専門研修を含む長期間にわたる生涯教育が必要である。臨床研修は医学生涯学習の観点から、卒前・卒後の一貫性をもった教育システムの中に位置付けられる必要がある。

医学知識の学習を終了し、卒前の臨床実習を開始する前に共用試験を必須化し、学生の医行為実施の法

的整備のもと診療参加型臨床実習を充実推進させ、2年間の臨床実習の充実を図る。卒前の臨床実習は研修病院等と連携して行う。このことにより、医学部卒業時点で十分な基本的臨床診療能力が獲得できる。

卒前臨床実習と卒後の臨床研究との理念・到達目標を整理する。卒前の臨床実習の到達目標は基本的医学知識と臨床・診療能力の獲得にあり、卒業後の新(初期)臨床研修はこれら臨床・診療能力をさらに発展させ専門的研修の導入期と位置付ける。その後の研修はより高度な専門研修として各専

会報142号・143号に掲載した「医師偏在化問題のクローズアップ」のアンケート回答からの提言

1. 医師の待遇改善をする

- ① 高度・困難な診療と一般診療とを分ける
- ② 小児科など特に医師の少ない診療科の医療スタイルを変える
- ③ 病院を、民間病院或いは民間委託型病院にする
- ④ 政策的に必要な治療を行う施設には公的補充金を支給する
- ⑤ 診療科ごとに必要な医師数の目標を決める
- ⑥ 労働条件の診療科差をなくす

2. 病院・診療科を見直す

3. 大学のありかたを改革する

- ① 各医大は地域枠を設けて入試を行う
- ② 地元出身者への特典を設けた入試を行う
- ③ 国家試験合格直後、医師の専攻を決めるのは定員制とする
- ④ 卒後は千葉大か千葉県に残り、病む人を救うことを一義的に考える医師になることを毅然と論じた教育をする
- ⑤ 研修生が魅力を持って修得できるカリキュラムとする
- ⑥ 人は死を迎えるものということを医療現場で理解できる教育をする
- ⑦ 研究組織としての医学部運営、臨床の場としての病院運営は別組織にして、病院の人事権は病院長に付与する
- ⑧ 学生臨床教育と卒後初期教育を専門的に担う総合内科と総合外科、救急部を大学病院に設けて、適正な人数の研修医を受け入れて教育する
- ⑨ 大学は研究と臨床前学生教育の義務に特化し、臨床教育は大学外の施設で修得させる

4. 現行医療制度を見直す

- ① 救急医療は保険制度から分離する
- ② 医療費削減政策を廃止する
- ③ 麻酔看護師制度を作る

5. 研修医制度を改革する

- ① 研修医制度に依存しない
- ② 魅力を感じる関連施設を多くする
- ③ 医師卒業後臨床研修制度を廃止する

- ④ 集中化防止策として都市部の研修医定員枠を設ける
- ⑤ 診療科選択の自由は強制的に縛ることを止める
- ⑥ 診療科の選択は、国レベルで適正な人数をコントロールできるシステムとする

- ⑦ 耳鼻科、眼科、皮膚科を希望する医師が、内科で6ヶ月も研修することがないカリキュラムとする

6. 医療訴訟への対応策

- ① 安心して医療が行える体制を作る
- ② 医療行為に伴った事故は、全て免責された上で、予防策を講じられるように、国へ働きかける
- ③ 医療事故処理を司法に任せるのではなく、医療界が自浄努力をする。また、医師を守る法整備を進める

7. 医師の偏在化防止

- ① センター化により科ごとに医師個人にかかる負担のアンバランスを是正する
- ② 大学の附属病院だけでなく、医学部を有する大学そのものを千葉県内に誘致する
- ③ 長期的には、医学部の定員をふやす
- ④ 理想的な臨床研修ができる地域中核病院を県内に数ヶ所（少なくとも2次医療圏に1病院）設け、そこを中心にして2次医療圏内の医療機関に医師を派遣或いは就職する体系を作る
- ⑤ 2次医療圏には、圏内で医療が完結するシステム（急性期医療から在宅医療まで、更に介護施設や老健などまでを含む）を医師会と行政が協力して作り上げる
- ⑥ 疾患により医療圏を跨いだ連携医療、医療従事者研修の実施、疾患によっては全国から患者を受け入れる機能を有する医療機関を作る

8. 同窓会の役割強化

- ① 全国、県、地区単位で開

災害対策訓練の紹介

業医と勤務医の連携を高める行動を同窓会が提案或いは展開する

② 現在の医療・医育制度が国の政策により潰滅の危機に瀕している現実につ

いての情報発信を、日本医師会と連携して強力に推し進める。

③ 労働環境や条件に関する各病院の情報を会員に提供する

平成19年度「千葉県国民保護共同実働訓練」が、平成19年11月21日、午前11時から午後2時30分に亘り実施されました。これは、平成16年に施行された「武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律（通称「国民保護法」）に基づいたもので、内閣官房・千葉県・千葉市主催の実働訓練でした。

訓練は、J R 海浜幕張駅、千葉港岸壁、千葉県庁、千葉市役所の4箇所で行われました。

J R 海浜幕張駅では、千葉市内の鉄道駅等において連続爆破があり、多数の死傷者が発生したことを想定して、被害者や負傷者の救出・救護、負傷者搬送、住民避難の実働訓練が行われました。

千葉港では、千葉港沖合に不審貨物船を発見したことから始まる一連の実働訓練が行われました。第3管

区海上保安部の指示を受けた千葉海上保安部巡視艇が不審貨物船の立会い検査のため接舷した際、銃撃され乗組員が負傷しました。千葉海上保安部と横浜海上保安部の巡視艇が包囲・対峙しました。不審船内には乗組員4名が人質にされており、千葉同時爆破についての犯行声明と、貨物船にはサリンが積み込まれていて、それを散布して日本人数万人を殺戮するとの予告が出されました。さらに、貨物船からサリンなどの化学薬剤の一部が散布されました。事件を知らない建設作業員が埠頭付近でサリンの被害を受けましたが、人質になっていた乗組員のうち2名は貨物船から海中へ脱出しました。以上のような状況を想定して、被害にあった建設作業員の救護のために、埠頭に散布されたサリンの検出、被害者の救助、サリン以外の化学物質

の検知作業、海中へ脱出した乗組員の救助、貨物船を乗っ取っていた犯人逮捕などの実働訓練が行われました。



テロリストに乗っ取られた船



被害者救助



脱出者救助

一方、千葉県庁と千葉市役所では、緊急事態対策本部を設置・運営する訓練が行われました。

なお、このような訓練は全国各地で試行され、将来、医療関係者も含めて行われる可能性があります。

危機管理情報

各府省が定める法律・省令・倫理指針等を検索できる項目とURLです。

なお、「医学研究に関する指針一覧」をキーワード入力し、「厚生労働省：医学研究に係る厚生労働省の指針一覧」をクリックすると、3、5、8が表示されます。

1. ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律」及び「特定胚の取扱」に関する指針」について
 - http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/seimei/2001/ha3/011201.htm
2. ヒトES細胞の樹立及び使用に関する指針について
 - http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/seimei/2001/

3. ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針
 - http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/seimei/genome/04122801.htm
4. 医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令
 - <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2002/09/s0904-3d.html>
5. 手術等で摘出されたヒト組織を用いた研究開発の在り方について
 - http://www1.mhlw.go.jp/shingi/s9812/s1216-2_10.html
6. 遺伝子治療臨床研究に関する指針
 - <http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/idsenshu/0504sisin.html>
7. 疫学研究に関する倫理指針
 - <http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/ekigaku/0504sisin.html>
8. 臨床研究に関する倫理指針
 - <http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/rinri/0504sisin.html>

追悼文

水口公信先生を偲ぶ

大学院医学研究院麻酔学
教授 西野 卓(昭47)



故水口公信先生は平成19年8月22日午前5時35分に永眠なされました。享年79歳でした。先生は昭和28年3月に千葉医科大学を卒業なされた後、外科医としての道を歩み始めました。しかし、昭和38年に国立がんセンターに出向された時からその活躍の場を変え、麻酔科医としての道を歩むようになりました。昭和42年には国立がんセンター麻酔科医長として、また、昭和60年には母校千葉大学の麻酔学教授として平成6年3月の定年退官まで、後進の指導は勿論のこと、わが国における麻酔学のまた緩和医療の指導者として、それらの普及と発展に多大な努力を払ってこられました。千葉大学退官後も聖路加看護

護大学教授として活躍し、さらに聖路加看護大学退職後も一般病院緩和病棟の部長として忙しく働いていた先生のお姿を昨日の事のよう思い出します。水口先生の業績は患者さんの麻酔管理を手術室だけに留めず、術前および術後の患者管理まで広げたことです。例えば、術前の不安状態を精神的サポート介入などで改善しようとした事、術後の痛みを硬膜外モルヒネの導入などによって積極的に軽減しようとした事などが挙げられますが、これらは後に先生のライフワークとなった。がん患者の除痛に結びついたのではないかと思っています。現在でこそ緩和医療の重要性が叫ばれていますが、30年以上前にその重要性に気づき、わが国における緩和医療の発展と普及に力を尽くしてこられた水口先生の功績は千葉大学医学部麻酔学教室の誇るべき業績として、長く

林 豊先生の ご逝去を悼む

千葉大学名誉教授
大和田 英 美(昭38)



故林豊先生は平成19年7月22日にご逝去になられました。享年78歳でした。先生は昭和4年に千葉県でお生まれになられました。昭和25年千葉医科大学附属医学専門部を卒業され、千葉大学附属病院でインターン後、千葉大学医学部第一病理学教室(故滝澤延次郎教授)に入局され、その後、助手、講師、助教を歴任し、この間3年間の米国留学をされ、セントルイスのWashington Universityで1年間、当時世

後世に伝えられものと信じております。ここ数年、先生の体調が優れないことは知ってはいましたが、これほど早く先生とのお別れがくることは予想もしておりませんでした。先生はどんなに忙しくても、我々後輩の話をよく聞いて、優しく、公平に、そして時には厳しく指導して下さいました。今思うと、先生は少し働きすぎでした。今はゆっくりとお眠り下さい。謹んでご冥福をお祈りいたします。

合 掌

界的な細胞組織学の泰斗 E.V.Cowdry 先生の許で研学され、その後2年間は Cowdry 先生の「推薦でデトロイトの Wayne 大学で研鑽されて帰国しました。滝澤教授の定年退官後、当時肺病研究施設病理研究部門教授であられた井出源四郎先生が、第一病理学教室の教授として移られた後の昭和44年2月に、肺病研究施設病理研究部門の教授に昇任されました。昭和57年4月から4年間同大学附属図書館亥鼻分館長、昭和57年8月から6年間に亘って肺病研究施設長を併任し、平成2年8月から2年間千葉大学医学部長および評議員を歴任されました。平成6年3月31日に定年により

千葉大学を退職されました。同年4月千葉大学名誉教授の称号を授与されました。先生の在職中は学部学生、大学院生、研究生、後輩への教育に熱心でした。先生の懇切な指導により多くの有能な人材を世に輩出されました。

故林豊先生は第一病理学教室に在籍中は主に腫瘍学の研究に従事され、特に悪性腫瘍細胞が周囲の基質細胞を破壊しつつ増殖する所見を組織化学的手法によって解明されました。その後呼吸器疾患の研究に尽力され、呼吸器病理学全般に亘り、日本肺病学会でも評価され、評議員、(理事を含め)常任理事を長く勤められました。また日本肺病学会では肺癌の組織分類委員会として、肺癌の組織分類規約の作成に寄与し、病理学的にも臨床的にも日常的に利用されました。故林豊先生の呼吸器病理学的研究は広範囲に及びますが、大気汚染の研究、アスベスト(石綿症)に関する研究、喫煙に関する研究、転移性肺腫瘍、また制癌剤投与による線維化症の研究などをはじめ多くの業績を残されました。

また学外では国立大学医学部長会議常置委員会委員、東京都複合大気汚染健康影響調査検討委員会委員、千葉県窒素酸化物対策専門委員会委員、千葉県がん対策審議会専門委員、財団法人千葉県ヘルス財団理事、財団法人医学教育振興財団理事等を歴任し、地域の発展・向上にも大いに貢献されました。

故林豊先生は肝炎を患っておられたと先生からお聞きしたことがあります。昭和20年代の病理解剖は資材不足で剖検時には素手或いは使い込まれた手袋が使われていました。当時は急性赤色(或いは黄色)肝萎縮症といわれた肝疾患患者についても同様な剖検が行われておりました。故林豊先生は剖検例からの感染ではないかと思われておられたようです。千葉大学を定年退職されてから、肝臓に結節が発見されました。(私どもには詳細はお話になり

ませんでした)多分肝硬変、肝臓ではなかったかと想像しております。腹水があり、両下肢の浮腫に悩まされ、利尿剤も使われていたようです。平成19年3月には奥様が急逝され、大変気を落とされておられる様子でした。

私は昭和39年に第一病理学教室に入局し、先生と一緒に肺病病理に移り、以来先生とは40年の永きに亘ってご指導を賜りました。先生は温厚篤実な性格で、しかも内に軽妙洒脱な側面をお持ちになり、学問の面では素より、多くの示唆、深い教訓を与えられて参りました。

先生の追悼の文を認めることは、何ともやりきれない気持ちを感じ得ません。謹んで哀悼の意を捧げ、只々ご冥福をお祈りいたします。

合 掌

同窓会員のご逝去に際し、弔文の掲載をご希望される方は、同窓会本部へ原稿をお送り下さい。

平成19年度第2回常任理事会議事要旨

日時 平成19年11月22日 (木) 午後6時

8時

場所 サンシティ(山崎製パン厚生年金基金会館)

出席者 青木謹、赤星至朗、伊藤晴夫、岩倉弘毅、大井利夫、大濱博利、佐藤通、白澤浩、鈴木信夫、瀧口正樹、田中光、寺澤捷年、藤山嘉信、道永麻里、吉川広和、濱陽高穂 (敬称略)

き、任期満了のため交代する3名の選考委員の補充について説明があり、新選考委員3名および選考委員長が承認された。

3. 会務分担について

同理事より資料に基づき、常任理事の会務分担と、事業部に新たに委員会を設けた案について説明があった。

事業部各委員会の性格を明瞭にするため、会長と各委員会の責任者とで話し合い、性格づけと今後の活動について各々検討することとした。また、若干の委員の入れ替えが了承された。

外務委員会の委員長については、会長より就任を要請することとした。

協議事項

1. 新のはな同窓会館設立事業について

寺澤捷年新同窓会館設立事業会財務委員長より、10月初旬に同窓会員に趣意書並びに振込用紙を送付したこと、約60社の製薬企業および医療機器メーカーの社長等に千葉大学担当者を通して趣意書等を手渡したこと、各地で直接会員に呼びかけ寄附のお願いをしている等の活動内容が報告された。

1. 学外研究助成選考結果について

瀧口正樹理事(伊豫雅臣担当理事代理)より資料に基づき、委員会による選考理由と結果について説明があり、石橋巖氏(昭55)と石川千恵子氏(平11)の2名に学外研究助成を授与することが承認された。

委員補充について

同理事より資料に基づき、任期満了のため交代する3名の選考委員の補充について説明があり、新選考委員3名および選考委員長が承認された。

3. 会務分担について

同理事より資料に基づき、常任理事の会務分担と、事業部に新たに委員会を設けた案について説明があった。

事業部各委員会の性格を明瞭にするため、会長と各委員会の責任者とで話し合い、性格づけと今後の活動について各々検討することとした。また、若干の委員の入れ替えが了承された。

た。現在のところ、募金額は予断を許さない状況であるが、企業を訪問し募金への賛同を得られるよう努力すること、また会員に対しては今後財務委員が分担し、会長とともに各地区をまわり寄附をお願いする等の予定が述べられた。

上記の報告に対して、寄附額の目安(何口等)が分かりにくい。

全体像がよくみえないので現状を具体的に随時報告する。

募集期限を切っては？いつまでにいくら集めてどのようにしたいのか。

会館の建設予定地は？同窓会館の詳細についても検討する必要があるのではないか。

等の意見が出された。今後、事業計画を整理し、順位付けをして、事業内容が会員に分かるように報告することとした。

2. 千葉大学卒業生に対するアンケート調査について

同窓会として千葉大学全学のアンケート調査に協力するが、個人情報保護等の観点から、同窓会が大学に代わって送付等を行うことなどが協議された。

報告事項

1. 留学生奨学金受給者選定について

瀧口理事より、新のはな同窓会賞選考委員会による選考結果に基づき、金元虎氏と郭風氏を支給対象者に決定したことが報告され、了承された。

2. 予算執行状況(中間報告)について

白澤浩理事より、順調に予算執行されている旨、報告があった。

3. 同窓会報関係

鈴木信夫理事より、会報147号を平成20年1月1日に発行する予定であること、また、20年5月発行の148号より清水栄司氏(平2、神経情報統合生理学教授)が編集長を担当するとの報告があった。

4. ホームページについて

白澤理事より、サーバーを移転して、リニューアルし、各支部のページを設けて支部の情報も掲載できるようにするとの報告があった。

5. 玄鼻キャンパス留学生交流会支援について

瀧口理事より、昨年、本年と2年にわたり同窓会が学生活動支援費より援助してきた交流会を、来年度は予算化して支援したいとの提案がなされた。

6. イリノイ大学との交換留学生の支援について

医学部教育委員会等から打診のあった標記の支援について、同窓会の事業として適切に継続できるかが重要なので、詳細な計画を提示してもらい、前向きに検討することとした。

定 について

瀧口理事より、新のはな同窓会賞選考委員会による選考結果に基づき、金元虎氏と郭風氏を支給対象者に決定したことが報告され、了承された。

2. 予算執行状況(中間報告)について

白澤浩理事より、順調に予算執行されている旨、報告があった。

3. 同窓会報関係

鈴木信夫理事より、会報147号を平成20年1月1日に発行する予定であること、また、20年5月発行の148号より清水栄司氏(平2、神経情報統合生理学教授)が編集長を担当するとの報告があった。

4. ホームページについて

白澤理事より、サーバーを移転して、リニューアルし、各支部のページを設けて支部の情報も掲載できるようにするとの報告があった。

5. 玄鼻キャンパス留学生交流会支援について

瀧口理事より、昨年、本年と2年にわたり同窓会が学生活動支援費より援助してきた交流会を、来年度は予算化して支援したいとの提案がなされた。

6. イリノイ大学との交換留学生の支援について

医学部教育委員会等から打診のあった標記の支援について、同窓会の事業として適切に継続できるかが重要なので、詳細な計画を提示してもらい、前向きに検討することとした。

平成19年度第3回常任理事会議事要旨

日時 平成20年2月27日 (水) 午後6時

8時

場所 東京ステーションコンファレンス

605 A室

出席者 青木謹、伊藤達雄、伊藤晴夫、岩倉弘毅、大井利夫、大濱博利、小幡裕、加部恒雄、早乙女勇、佐藤

を移転して、リニューアルし、各支部のページを設けて支部の情報も掲載できるようにするとの報告があった。

瀧口理事より、昨年、本年と2年にわたり同窓会が学生活動支援費より援助してきた交流会を、来年度は予算化して支援したいとの提案がなされた。

医学部教育委員会等から打診のあった標記の支援について、同窓会の事業として適切に継続できるかが重要なので、詳細な計画を提示してもらい、前向きに検討することとした。

平成20年度行事予定に

通、白澤浩、鈴木信夫、瀧口正樹、田邊政裕、田中光、寺澤捷年、吉川広和、吉原俊雄、濱陽高穂 (敬称略)

1. 平成20年度行事予定に

伊藤晴夫会長の挨拶の後、同会長が議長となって議事が進められた。

議案

3. 会務分担について

同理事より、前回の常任理事会に諮った分担案の修正について、関連事業部委員会の責任者の了解を得た

1. 予算執行状況(中間報告)について

白澤理事より資料に基づき、予算執行状況および決算予測について報告があった。支部事業支援費の有効活用が望ましい旨要請がなされた。メディアカルオンライン事業費については、昨年度からの使用量の余りがあるため、本年度は20万円を減らす旨、報告された。

白澤理事より資料に基づき、予算執行状況および決算予測について報告があった。支部事業支援費の有効活用が望ましい旨要請がなされた。メディアカルオンライン事業費については、昨年度からの使用量の余りがあるため、本年度は20万円を減らす旨、報告された。

白澤理事より、資料に基づき、平成20年度予算編成に当たって、事業予算で検討すべき点について説明があった。平成20年度予算では、猪之鼻奨学金支出金は従来の30万円に戻し、IT・広報関連事業費はホームページ充実化のために30万円増額する編成を行うことが了承された。項目名「支部事業支援費」は、支部活性化の事業であることを明確にするために、「支部活性化事業費」と変更することが了承された。玄鼻地区の留学生交流支援費30万円を予算化することが了承された。

同理事より説明があり、平成20年度総会は大学が担当し、6月21日(土)15時、銀座アスターお茶の水資館において開催されることが承認された。なお、特別講演など詳細については今後検討することとなった。研修病院紹介の会はお茶の水資館近接のビジネスセンターで開催予定となった。

平成20年4月23日、11月20日、平成21年2月25日

平成20年6月21日

平成20年6月21日

平成20年5月、9月、平成21年1月

平成20年4月23日

平成20年11月20日

同理事より説明があり、平成20年度総会は大学が担当し、6月21日(土)15時、銀座アスターお茶の水資館において開催されることが承認された。なお、特別講演など詳細については今後検討することとなった。研修病院紹介の会はお茶の水資館近接のビジネスセンターで開催予定となった。

入に對して、税務署の調査を受け、500万円程の法人税を徴収される見込みである、との報告があった。

2. 広報・編集関係

鈴木信夫理事より、清水栄司先生が1月より同窓会報編集長となり、事業部の広報・会報委員会委員としての常任理事就任が望ましいため、20年度の総会での承認を得たい旨、報告があった。

会報の内容については、他大学同窓会館の状況についての記事に力を入れ、すでに信州大学に取材に行き、現在九州大学に取材に行くことを準備中である旨、報告があった。ホーム

ページについては、医師募集の広告活動等、広報編集関係の事業の見直しも含め充実化を図りたい旨、報告があった。

3. 新のほな同窓会館設立事業について

寺澤捷年財務委員長より資料に基づいて以下のよう

- ①企業の出足が悪い。
②日本製薬連に依頼しているがそれほどの高額は期待できない。
③教職員からの寄附が少ない。
④後援会会員からかなりの

協力を得ている。同窓会館の具体的な像が見えないという声に対して、会館建設場所や構造の予定図が提出され、説明があった。それに対して、

重要である。支部長会で会館設立事業についての要望を提出してもらおう。

同窓会館は学生のために設立するということが目的なのか。最低限必要なものを造るというようにコンパクトに考えたほうがよいのではないか。

同窓会館と大学との関係がはつきりしていないことが問題ではないか。寄附の基準をつくる。

寄附額に応じての冠について考える。同窓会館は一体何のために造るのかを理事会として明確にしておくことが

平成19年度・るのほな会

臨時支部長会議事録

(平成20年3月17日・御茶ノ水)

出席者

- 三宅和夫(昭21・茨城)
赤星至朗(昭34・山梨)
田中光(昭24・東京)
大井利夫(昭35・副会長)
大濱博利(昭27・千葉)
佐藤通(昭35・静岡)
柴崎晃(昭28・栃木)
伊藤晴夫(昭39・会長)
小幡裕(昭28・参与)
濱陽高穂(昭45・副会長)
伊藤敏夫(昭30・埼玉)
角田隆文(昭57・東京)
横田俊二(昭30・埼玉)

ご多忙の中お集まりいただき衷心より感謝。今回は医師会長選挙を控え、緊急の支部長会となった。るのほな同窓会として大同団結し、熱烈支援の気持ちを唐澤会長までお伝えしたい。

募金については、本日寺澤事業本部長が欠席で残念であるが、資料に示すごとく約半年間に6千万近く集まっている。多くの方々から募金基準を提示すべきとの意見が寄せられており、募金目標や募金者に対する顕彰策などについても、ご高見を伺えばありがたい。他大学の状況も調べて、私の同級生である群馬大学鈴木守学長と対談した

際の内容も参考になるかと考え、資料に追加してある。各支部同窓会員の意見に最も接しておられる支部長はじめ重鎮の方々の忌憚のないご意向をお聞かせ願いたい。

佐藤(静岡)・・・今回唐澤会長は、再選に向けて去る3月1日パレスホテル(および東京都医師会館)に選挙事務所を置き、事務所開きを催して決意を表明された。唐澤会長の推薦母体は東京都医師会であるので、選挙責任者の役割を鈴木聡男東京都医師会会長にお願いしたい。

である。今までに北海道、東北、中部、中国、四国、九州の各ブロック医師会連合の推薦状が届いているが、まだ棄権は早い。各方面の情報によると、2月14日に行われた大阪府医師会長選挙で唐澤支持である現職の酒井会長が1票差で辛勝したが、敗戦派が苦情を申し立てており、紛糾が若干長引いている。(この他、東北・秋田、三重、関西方面の貴重な情報が披露された)

同窓会館新築募金事業については、審議に長期間を費やしたが認識が徹底しておらず、この会で決議なりを示し、手順を踏んで総意をまとめていくのが常道だろう。

三宅(茨城)・・・遠方より参加している。皆さんのご努力をねぎらいたく、この辺でお酒も始めたい。茨城は筑波大も控え、るのほな会活動も熱心であり、みな協力的といえる。今後もお役にたちたい。では今夜の会が爽りあるものとなり、唐澤日本医師会長の再選を期し、またるのほな会の発展と参会者の健康を祈念して乾杯

柴崎(栃木)・・・わが同窓、唐澤会長はその見識と人望から再選はまず確実との印象をもっており、今日のるのほな支部長会の支援表明は極めて有意義である。また募金についての意見を述べたい。同窓会員としての母校愛は栃木支部も人後に落ちない。130名余りの会員は、皆協力の意思は旺盛だが、その方法論でまだ迷っている。この会で、規模と基準をはつきり示せば弾みがつくだろう。



伊藤晴夫先生

伊藤晴(会長)・・・年度末のご多忙の中お集まりいただき衷心より感謝。今回は医師会長選挙を控え、緊急の支部長会となった。るのほな同窓会として大同団結し、熱烈支援の気持ちを唐澤会長までお伝えしたい。募金については、本日寺澤事業本部長が欠席で残念であるが、資料に示すごとく約半年間に6千万近く集まっている。多くの方々から募金基準を提示すべきとの意見が寄せられており、募金目標や募金者に対する顕彰策などについても、ご高見を伺えばありがたい。他大学の状況も調べて、私の同級生である群馬大学鈴木守学長と対談した際の内容も参考になるかと考え、資料に追加してある。各支部同窓会員の意見に最も接しておられる支部長はじめ重鎮の方々の忌憚のないご意向をお聞かせ願いたい。

佐藤(静岡)・・・今回唐澤会長は、再選に向けて去る3月1日パレスホテル(および東京都医師会館)に選挙事務所を置き、事務所開きを催して決意を表明された。唐澤会長の推薦母体は東京都医師会であるので、選挙責任者の役割を鈴木聡男東京都医師会会長にお願いしたい。

である。今までに北海道、東北、中部、中国、四国、九州の各ブロック医師会連合の推薦状が届いているが、まだ棄権は早い。各方面の情報によると、2月14日に行われた大阪府医師会長選挙で唐澤支持である現職の酒井会長が1票差で辛勝したが、敗戦派が苦情を申し立てており、紛糾が若干長引いている。(この他、東北・秋田、三重、関西方面の貴重な情報が披露された)

同窓会館新築募金事業については、審議に長期間を費やしたが認識が徹底しておらず、この会で決議なりを示し、手順を踏んで総意をまとめていくのが常道だろう。三宅(茨城)・・・遠方より参加している。皆さんのご努力をねぎらいたく、この辺でお酒も始めたい。茨城は筑波大も控え、るのほな会活動も熱心であり、みな協力的といえる。今後もお役にたちたい。では今夜の会が爽りあるものとなり、唐澤日本医師会長の再選を期し、またるのほな会の発展と参会者の健康を祈念して乾杯

たアジアに巡ってくるので、唐澤・世界医師会も夢ではない。ここ数ヶ月は英気を養い、無理することなく全復後、医師会の舵取りをされるよう願っている。



小幡 裕先生

同窓会館募金に関しては、皆、医師にしていたという感謝の気持ちを再認識すれば、一口2〜3万としても、数口以上応募を願う会員は多いのではないかと横田(埼玉)・唐澤再選へ向け、埼玉支部から馳せ参じた。われわれは埼玉県内で唐澤会長再選をめざし、各方面に協力を要請しているところだ。唐澤再選を何としても実現させるよう、るのな会あげて支援する気持ちをお伝えしたい。その暁には、このまとまりが同窓会館新築募金活動に役買ってくれることになるだろう。

募金事業については、医局やクラブ単位の連携の絆の強いところから、同心円状に運動を広げていったほうが、より効果的に思える。現役学生達にもクラブの先輩などへの訪問などを、地道に実行させるとさらに効果が期待できると考える。岡本(東京)・若手にも母校愛に溢れている人間は多い。国立大の悠揚迫らぬ雰囲気やどれほど有難くまた誇りに思ったことか。唐澤会長は千葉大学医学部の宝であり、るのな同窓会のある意味でのシンボリック存在だろう。

同窓会館はクラブ活動の原点であり、この新築の意味は学生ならずとも極めて大きい。募金についてはクラブを基盤として進めることが強力なバネになる筈だ。自分としては最大限協力させて貰うつもりでいる。(他に自由意見として勤務医10万、開業医20万などの要請は無意味との声も聞か



唐澤 裕先生

赤星・かつて山梨県立病院長時代に改築計画で、予算規模600億円の病院新築に携わった経験がある。プランが明確でないとは難航する。予算と共に、最小限の建築計画を固めることが重要と思える。

柴崎・今日の会合の議論は、同窓会支部の生の声であり、地方会員一人一人の意見を代弁するもので非常に意義がある。記録をまとめ、会員全体に知らせることも重要であるのでよろしく頼みます。また今回決議に至らずとも今日の内容に立脚して、今後の同窓会活動を進めて貰いたい。

大井(副会長)・総括…一昨年、東京るのな会新年会において、唐澤東京都医師会会長(当時)も出席され、われわれの気持ちを察して、出馬の決意を表明された。同窓の支援も貴重なものと考えられる。是非とも今日のこの会の意向をお伝えして、再選へのステップを確実なものにしていただきたい。

同窓会館募金活動は、明確なビジョンを持つべきである。募金目標や募金基準を確定しないと進めにくい。会議室や事務局の大きさ、用途、部屋や宿泊なども含めるか、また建築単価計算からも検討が必要で、坪100万円とすればやはり2〜3億円は必要だろう。あくまで浄財を募るという姿勢が大事である。顕彰方法も含め早急に結論を出す必要がある、少人数に諮問して原案を示し、理事会で承認すればよいのではないかと。最終的には会長一任でよい。いずれにしろ記念事業の遂行については、最終ストレッチに入っており、満を持して決定し、同窓会総体として推進する決意が大事である。

田中(東京)・今夜は議論百出し、大変有意義な会合となった。唐澤会長再選への熱意を結集することができ、何よりと感じた。募金事業についても、詰めるところは詰めて、広く協力を仰ぐよう希望する。今夜みなさんご苦労でした。(文責 済陽高穂)

高密度焦点式超音波 前立腺治療システム



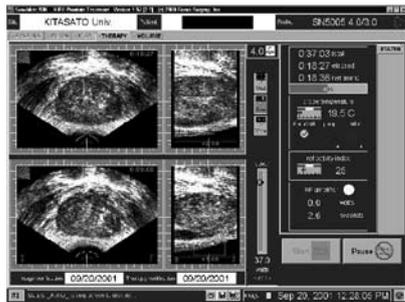
Sonablate™ 500

HIFU Acoustic Knife

High Intensity Focused Ultrasound Prostate System

New Modality For BPH Treatment...

治療とイメージングは経直腸プローブ内の同一トランスデューサーで行い、治療部位が正確に把握できるだけでなく治療中のモニタリングがリアルタイムで可能なので、安全な治療が出来ます。治療はトランスデューサーから高エネルギー超音波を照射し狭い焦点で超音波を集束させ、焦点領域の温度を数秒で80~100℃に上げて、組織を凝固壊死させます。



- 低侵襲的です
- 出血がない
 - 介入組織や周辺組織の損傷が少ない
 - 治療に起因する傷や痛みが少ない
 - 感染症の心配や副作用が殆どない

- 低コストです
- 入院日数が短い
 - 患者の回復が早い
 - 医療スタッフの労力を大幅に減少
 - 最小限の消耗品で低ランニングコスト

輸入発売元



本社 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-25 TEL(03)3814-7761 FAX(03)3814-9694
 名古屋営業所 〒465-0093 名古屋市中区東一社3-90-307 TEL(052)704-6131 FAX(052)704-5636
 大阪営業所 〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19-811 TEL(06)6946-6629 FAX(06)6946-9413
 福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-17-5-504 TEL(092)414-5525 FAX(092)414-5530

平成20年度 医学部入学者

Table listing medical school entrants for Heisei 20, including names like 浅井 俊一, 飯田 和馬, 石井 遙子, etc.

平成20年度 大学院入学者

Table listing graduate school entrants for Heisei 20, including names like 齋藤美弥子, 菅沼宏典, 北村惇史, etc.

美、森本英樹、〔法医学〕 咲間彩香、永澤明佳、〔感 染生体防御学〕 菊村亮暁

子機能制御学』袁 璿〔神 經生物学〕川本 玲〔認知 行動生理学〕倉山太一、須 藤千尋、山下弘毅〔眼科学〕

太田優子〔感染生体防御 学〕植村紀子〔分化制御学 PANJING〕〔免疫発生物学〕

人事異動

小倉 武彦(平2) (同助教より) 精神医学 宮武 良輔 (同助教より)

千葉県職員人事異動

循環器病センター 鈴木 亮二(昭49) 医療局 長(診療部長)

古口 徳雄(昭60) 神経系治療科部長(第三診療科部長)

武内 重康(昭56) 胸膜部治療科部長(主任医長)

向井 秀泰(昭62) 外傷治療科部長(第四診療科部長)

嶋村 文彦(昭63) 主任医長(医長)

新田 和正(平10) 医長(新採)

宮澤康太郎(平11) 医長(新採)

山岡 智樹(平13) 医長(医師)

こども病院 青墳 裕之(昭55) 診療部長(主任医長)

建部 俊介(金沢平10) 医長(新採)

江畑 亮太(平11) 医長(新採)

循環器病センター 宮崎 彰(順大昭52) 診療部長(循環器治療科部長)

村山 博和(昭55) 診療部長(心臓血管外科部長)

石川 隆尉(昭56) 循環器科部長(主任医長)

松尾 浩三(昭55) 心臓血管外科部長(主任医長)

林 永規(島根医大平2) 外科部長(医長)

立野 滋(昭63) 主任医長(医長)

井上 寿久(昭63) 主任医

長(医長) 太和田昌枝(平13) 医長(医師)

藤川 厚(平13) 医長(医師)

東金病院 岩崎好太郎(福島医大昭63) 外科部長(医長)

染谷 知宏 医長(新採)

佐原病院 峯 清一郎(昭55) 診療部長(新採)

小川 恭秀 医長(医師)

市立海浜病院 広瀬 彰(昭48) 病院長(副院長)

黒崎 知道(昭51) 副院長(診療局長、眼科部長事務取扱)

太枝 良夫(昭53) 診療局長、眼科部長事務取扱(外科部長)

千葉市保健所 瀬谷 彰(昭56) 次長・健康部技監兼務・健康増進センター主任医長事務取扱・中央区役所保健福祉センター技監兼務(同兼務・中央区役所保健福祉センター健康課主任医長兼務)

保健福祉局 井上 俊宏(平2) 所長・保健所精神保健福祉課主任医長兼務(川崎市精神

千葉市職員人事異動

千葉県職員より退職

保健福祉センター主幹・こころの相談所長

がんセンター 大里 克信(昭46) 脳神外科部長

加藤 一喜(平5) 医長 救急医療センター

当間 雄之(平7) 医長 循環器病センター

斎藤 学(昭44) 医療局長

芹澤 徹(昭61) 主任医長

松田 信二(香川医大昭62) 主任医長

藍 壽司(富山医薬昭63) 医長

東金病院 國府田正雄(平3) 整形外科部長

中島 新 医長

橋本 将行(平7) 医長 佐原病院

黄田 光博(島根医大平元) 医長

千葉市職員より退職

千葉県医師会新役員

会長 藤森 宗徳(昭37)

副会長 井上 雄元(金沢昭39)

鈴木 一郎(昭42) (新)

田那村 宏(慈恵昭42) (新)

理事 森本 浩司(富山医薬昭62)

鎌田 栄(金沢昭52) (新)

篠宮 正樹(昭50) (新)

石川 広巳(昭55)

李 笑求(延世昭57)

監事 守 正英(慈恵昭44) (新)

病院長(ご就任など人事異動に関するニュースを紙面にてご紹介させていただきますので、その都度同窓会事務局までお知らせいただければ幸いです。

+++++

最近、ゐのほな同窓会を名乗り、会員の現住所を聞き出そうとする悪質な電話が増えています。

当事務局が電話でお聞きすることは一切ありませんので、お答えにならぬようお願いいたします。

ご注意ください！

第84回千葉医学会学術大会

(第45回日医生涯教育講座)

日時：平成20年9月5日(金) 16:10～
場所：千葉大学医学部附属病院 3階 第一講堂

特別講演 教えられたこと、伝えたいこと

演者：多田 富雄 先生(東京大学 名誉教授)
座長：近藤 洋一郎 先生(千葉大学 名誉教授)



多田富雄先生

招待講演 免疫システム、その統御による免疫治療の開発研究

演者：中山 俊憲 先生(千葉大学大学院医学研究院免疫発生学 教授)
座長：徳久 剛史 先生(千葉大学大学院医学研究院長・医学部長/分化制御学 教授)



中山俊憲先生

参加手続き及び費用は不要

ご来場の際は公共の交通機関をご利用下さい。
多くのご来場をお待ち申し上げます。

問合せ：千葉医学会 (〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内)
TEL：043-202-3755 FAX：043-202-3757
e-mail：info@c-med.org URL：http://www.c-med.org

平成20年卒業生の卒後研修先

千葉大学医学部附属病院では、卒後臨床研修プログラムとして、9種類（プログラムA1～A4、B1～B4、C）を用意している。1年目に大学病院、2年目に協力病院で研修する方式（プログラムA1～A4）と1年目に協力病院、2年目に大学病院で研修する方式（プログラムB1～B4）、2年間大学病院で研修する方式（プログラムC）である。

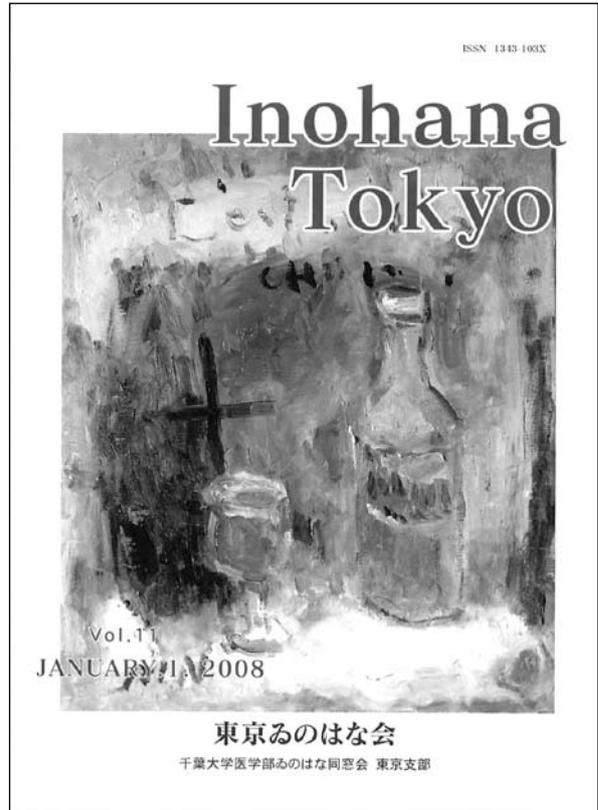
また、卒後2年間の初期研修プログラムを終えた研修医を対象に後期研修医制度を立ち上げ、後期研修医の受入にも積極的に対応している。

研修先プログラム	1年目	2年目	人数	研修先プログラム	1年目	2年目	人数
千葉大 A1	千葉大医学部附属病院	千葉市立青葉病院	1	成田赤十字病院	成田赤十字病院	成田赤十字病院	3
千葉大 A2	千葉大医学部附属病院	君津中央病院	2	船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	3
千葉大 A2	千葉大医学部附属病院	国保旭中央病院	1	国保旭中央病院	国保旭中央病院	国保旭中央病院	2
千葉大 A2	千葉大医学部附属病院	成田赤十字病院	1	横浜労災病院	横浜労災病院	横浜労災病院	2
千葉大 B1	国立病院機構千葉医療センター	千葉大医学部附属病院	2	国立国際医療センター	国立国際医療センター	国立国際医療センター	2
千葉大 B1	千葉社会保険病院	千葉大医学部附属病院	2	聖路加病院	聖路加病院	聖路加病院	2
千葉大 B1	千葉市立海浜病院	千葉大医学部附属病院	1	東京医療センター	東京医療センター	東京医療センター	2
千葉大 B1	千葉市立青葉病院	千葉大医学部附属病院	1	東京通信病院	東京通信病院	東京通信病院	2
千葉大 B1	JFE健康保険組合川鉄千葉病院	千葉大医学部附属病院	1	東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院	2
千葉大 B2	松戸市立病院	千葉大医学部附属病院	2	川崎市立川崎病院	川崎市立川崎病院	川崎市立川崎病院	2
千葉大 B2	成田赤十字病院	千葉大医学部附属病院	1	横浜市立みなと赤十字病院	横浜市立みなと赤十字病院	横浜市立みなと赤十字病院	2
千葉大 B3	船橋中央病院	千葉大医学部附属病院	1	総合南東北病院	総合南東北病院	総合南東北病院	1
千葉大 B3	済生会習志野病院	千葉大医学部附属病院	1	さいたま赤十字病院	さいたま赤十字病院	さいたま赤十字病院	1
千葉大 B4	下都賀総合病院	千葉大医学部附属病院	1	佐久総合病院	佐久総合病院	佐久総合病院	1
千葉大 B4	沼津市立病院	千葉大医学部附属病院	1	社会保険中央総合病院	社会保険中央総合病院	社会保険中央総合病院	1
千葉大 C	千葉大医学部附属病院	千葉大医学部附属病院	3	亀田総合病院	亀田総合病院	亀田総合病院	1
東大医学部附属病院 A	東大医学部附属病院	千葉大医学部附属病院	1	公立昭和病院	公立昭和病院	公立昭和病院	1
東大医学部附属病院 B	癌研究会有明病院	東大医学部附属病院	2	川口市立医療センター	川口市立医療センター	川口市立医療センター	1
東大医学部附属病院 C	東大医学部附属病院	東大医学部附属病院	2	武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	1
慶応大医学部附属病院 D	慶応大医学部附属病院	東大医学部附属病院	1	都立駒込病院	都立駒込病院	都立駒込病院	1
東京女子医大八千代医療センター	東京女子医大八千代医療センター	東京女子医大八千代医療センター	4	都立豊島病院	都立豊島病院	都立豊島病院	1
東京女子医科大学	東京女子医科大学	東京女子医科大学	2	都立墨東病院	都立墨東病院	都立墨東病院	1
東京歯科大学市川総合病院	東京歯科大学市川総合病院	東京歯科大学市川総合病院	1	東京都老人医療センター	東京都老人医療センター	東京都老人医療センター	1
自治医科大学附属さいたま医療センター	自治医科大学附属さいたま医療センター	自治医科大学附属さいたま医療センター	1	虎の門病院	虎の門病院	虎の門病院	1
松戸市立病院	松戸市立病院	松戸市立病院	6	東京警察病院	東京警察病院	東京警察病院	1
君津中央病院	君津中央病院	君津中央病院	5	湘南鎌倉総合病院	湘南鎌倉総合病院	湘南鎌倉総合病院	1
千葉県がんセンター	千葉県がんセンター	千葉県がんセンター	4	横須賀市立うわまち病院	横須賀市立うわまち病院	横須賀市立うわまち病院	1
千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	3				

東京るのほな会 2008年 1月 Vol.11

目 次
Inohana Tokyo vol.11

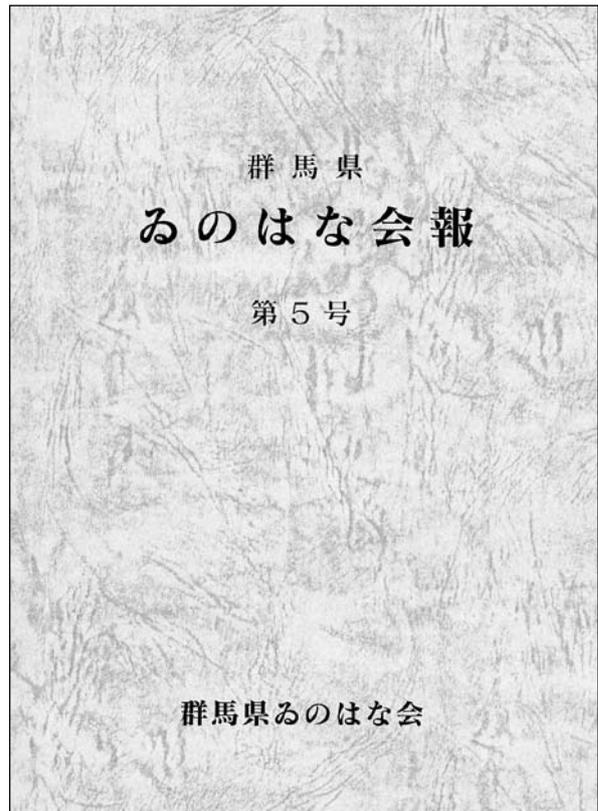
	Page
巻 頭 言 年頭にあたって	河野 高徳 1
年頭所感	岩澤 洋人 3
所感 - 東京るのほな会長の任期を終えて	小幡 裕 5
ご挨拶	伊藤 祐夫 7
迎春るのほな会に出向して	山上健次郎 9
偏差教育に陥った心理療法	久島 瑛二 11
ハンコの話	神山 郁 15
第 孝生祭	田中 美 19
胡 麻	江戸川三太郎 24
私の健康作り	西宮 徹 28
ケアンズ手摺	岡家正 一郎 29
老 醜	小沢 昭司 34
海上自衛隊 横須賀基地を訪ねて	村瀬 裕 37
前朝回顧	藤山 敏行 41
これが現実です	石山 淳 38
副産物救急医療の報道について	吉倉 弘毅 53
勤務医から開業医に脱皮して何だったこと	徳井 幸武 53
連合るのほな会 報告	59
予 算 決 算	61
平成20年度るのほな行事予定	62
東京るのほな会役員分担	62
東京るのほな会会則	63
東京るのほな会会費納入者名簿	65
勤 務 医 通 信 vol.12	
平成19年6月2日【紹介】：日経医療診療の現在と未来	小泉 政男 69
日本における代替医療研究への指針	斎藤 邦夫 72
東京在住に感謝して	土塚すく子 77
東京女子医科大学付属 八千代医療センター(TYMC)の近況	伊藤 達雄 80
第50回日本人気検査学会総会	松川 正明 83
都立大検院の現況	山 智 85
がん対策 緩和ケア病棟で臨床研修を	山崎 卓郎 87
韓国 近くて遠い国から、身運な国へ!	塚原 規 89
総合診療医日記	岡本 和久 93
東京るのほな会 新年会 ご案内	95
編 集 後 記	96



群馬県るのほな会 2008年 2月29日発行 第5号

群馬県るのほな会 第5号
— 目 次 —

平成19年度群馬県るのほな会総会 並びに 鈴木守先生群馬大学学長職任祝賀会 鈴木守学長記念講演 (要旨)	
時の流れ (1)	鹿山 徳男 (昭和29年生) 9
随 筆	田中 敬明 (昭和16年生) 11
為 万 世 開 太 平	平形 義人 (昭和19年生) 12
「バーベキューソース」試作のおすすめ	新井 邦男 (昭和23年生) 13
終戦時の思い出	長谷川 透 (昭和29年生) 16
講談 黒田節 (武士)	山本 輝通 (昭和30年生) 18
外科医事始	西村 忠雄 (昭和32年生) 23
最近経験した稀な症例	黒岩 瑠光 (昭和37年生) 26
昨今の世相	保阪亜莉沙 (昭和48年生) 29
千葉を去る日	中島 透 (昭和56年生) 31
第2回群馬県るのほな会ゴルフコンペ	34
会計報告	35
会員名簿	36
会 則	38
編集後記	39



日本語医学文献インターネット配信サービス

メディカルオンライン

http://www.meteo-intergate.com/library/

全文配信サービスをしております。ホームページともリンクしています。

ID番号等これまでと変更ありませんが、ご不明の場合は同窓会事務局

(TEL: 043-202-3750、

E-mail: indoso@graduate.chiba-u.jp)

にお尋ねください。

第102回 医師国家試験成績

試験日 平成20年2月16日(土)・17日(日)・18日(月)

合格発表 平成20年3月28日(金)

受験者 110名(新卒者 103名)

合格者 103名 合格率 93.6%(新卒者 99名 合格率 96.1%)

参考 国立 合格者 4,132名 合格率 91.6%
全国 合格者 7,733名 合格率 90.6%

研修病院・大学院診療科を紹介する会

日時:平成20年6月21日(土)午後1時~5時
(6時より銀座アスターお茶の水賓館にて懇親会)

場所:東京・TKP御茶ノ水ビジネスセンター
(TEL:03-5298-5133)

主催:千葉大学ゐのはな同窓会(事業会務)

参加費:無料

参加登録が必要です(下記のFaxかE-mailをご利用下さい)。原則として事前登録をしていただきたいですが、当日会場でも登録可能です。

詳細の問い合わせ先

ゐのはな同窓会事務局

TEL:043-202-3750

FAX:043-202-3753

E-mail:indoso@graduate.chiba-u.jp

おくやみ

- 蔵口政次郎(昭5)
大野春江(東妻医昭9)
大塚通義(日本大昭12)
入江正(昭13)
杉村脩一(昭16)
中島博太郎(昭16)
細川喜代治(東妻医昭16)
中村泰治(昭17)
本間哲雄(昭17)
青木正臣(昭17)
森田義勝(京大昭17)
落合和雄(昭18)
津田豊和(昭19)

- 岡沢静雄(昭19)
小倉一郎(昭20)
関尾秀一(昭20)
平川陽三(昭20)
茂在豊喜(昭20)
鈴木莊六(昭20)
徳山貴一(昭20)
太田敏子(孝医昭20)
佐竹有信(昭21)
大谷克巳(京大昭21)
中村宏(昭21)
織本正慶(昭22)
三橋公平(昭22)
照屋正子(東妻医昭22)
田中幸次(昭23)

- 越川衛(昭23)
橋本坦(昭23)
宮入繁夫(昭23)
三橋金次郎(九州大昭23)
鈴木正基(昭24)
井上通(昭24)
那須昭夫(昭24)
原山嘉彦(昭24)
渡辺昇(昭24)
平井俊児(昭25)
小田精司(京大昭25)
石井英彦(昭25)
川島寛(昭25)
高田輝雄(昭25)
中林遥(昭25)

- 磯部宏志(昭26)
金沢勝男(昭和医昭26)
清水民之助(昭27)
鹿野純一(昭27)
戸沢典子(昭27)
上野正和(昭28)
仲村長正(昭29)
新井弘(昭32)
泉宏重(昭33)
片岡敬文(東北昭34)
下川哲男(関西昭37)
野本高志(昭38)
関本一義(新潟昭40)
丸山雅一(昭41)
小方信二(昭53)



編集後記

ゐのはな同窓会報・第148号をお届けいたします。鈴木信夫先生よりバトンをいただきました。本号より、私、清水栄司が、編集委員長を担当させていただきましたこととなりました。同窓会会員の先生方のお手元に、これまで同様に素晴らしい会報をお届けできますように、若輩ですが、誠心誠意つとめますので、よろしくお願ひ申し上げます。

去る2月、栗山喬之先生、服部孝道先生、齋藤康先生、一瀬正治先生の最終講義がございました。これまで、千葉大学に多大のご貢献をいただいた先生方に、深謝いたしますと

もに、今後ともかわらぬご指導ご鞭撻を賜りたく存じ上げます。本年4月から、齋藤康先生が、千葉大学学長になられ、新しい大学づくりがはじめられております。任期制・再任審査制によって、大学の教官が毎年評価されることは当たり前となりましたが、本年度は、国立大学法人そのものが、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関し、文部科学大臣が認証する評価機関「大学評価・学位授与機構」によって、評価を受けます。教育研究水準の向上に資するためです。評価されることの利点として個

人的に思うのは、日常の多忙さに埋もれがちな自分の理想の目標を、評価時にあらためて思い出すということ。千葉大学医学部のスローガン「疾病の克服と生命現象の解明に向け、未知の領域に挑戦し続けま」がそれです。ところで、現在の医学部本館は、昭和12年(1937)に、7年の歳月を費やし完成し、当時東洋一と称された千葉医科大学附属病院です。昭和53年(1978)に、現在の医学部附属病院がオープンします。このような伝統と最新の情報を、今後も皆様にお伝えできるよ

う、より良いものにしていただきたいと思っておりますので、「ゐのはな同窓会報」につきまして、読者である先生方お一人お一人から、紙面についてのご評価をいただき、お気づきの点があれば、同窓会事務局まで、お気軽に、ご意見を賜れば幸いです。清水栄司(平2)

